LIXIL
INAX

保証書付

オストメイトパック

PTOM-A210型

取扱説明書

工事店様へのお願い
貴店名ならびに据付引渡日を保証書にご記入の上、お客さまに必ずお渡しください。
また、定期的に交換が必要な部品があることをお客さまに必ずお伝えください。

**このたびは当社商品をお買い求めいただき誠にありがとうございました。
ご使用前にこの説明書をよくお読みのうえ正しくお使いください。
お読みになった後もすぐ取り出せる場所に大切に保管してください。**

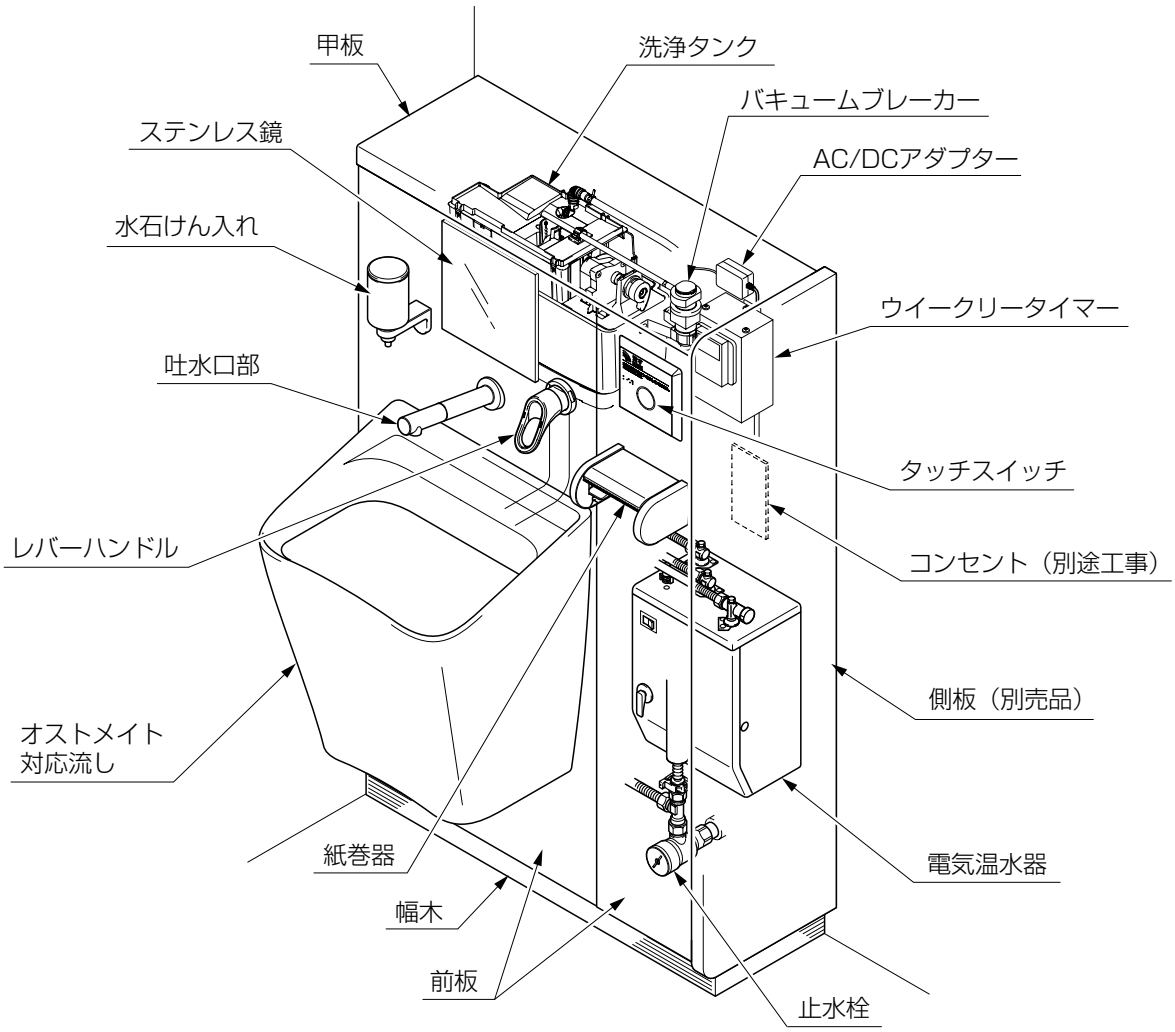
**この説明書に書かれている注意事項は、必ず守ってください。
不適切な使用により事故が生じた場合、
当社は責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
転居される場合、次に入居される方にこの説明書と保証書をお渡しください。**

もくじ

各部の名称…… 2
安全上のご注意…… 3
ご使用前の確認…… 9
ご使用方法…… 17
お手入れ方法…… 23
保守点検方法…… 25
修理を依頼される前に…… 43
アフターサービスについて…… 48
仕　様…… 50
保証書…… 51

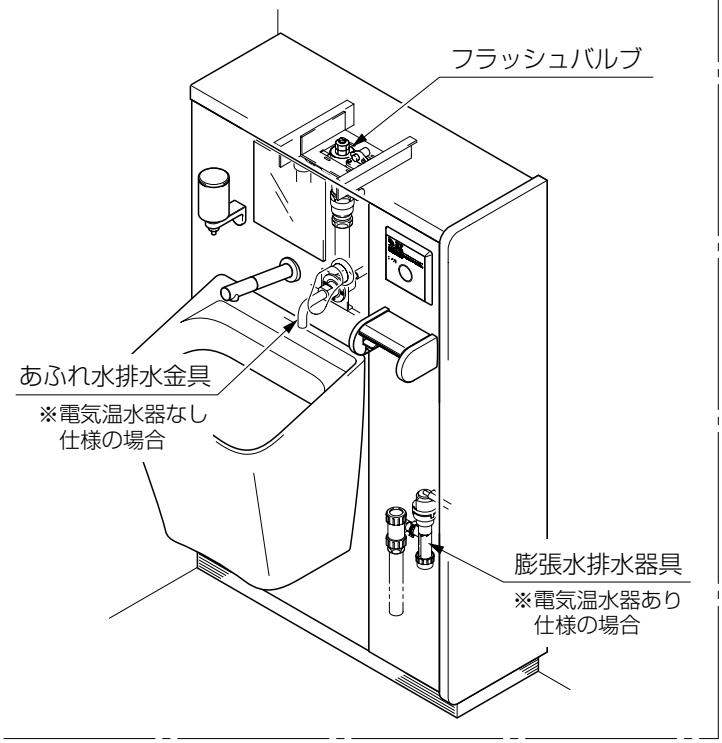
プラ
袋：PE

●各部の名称

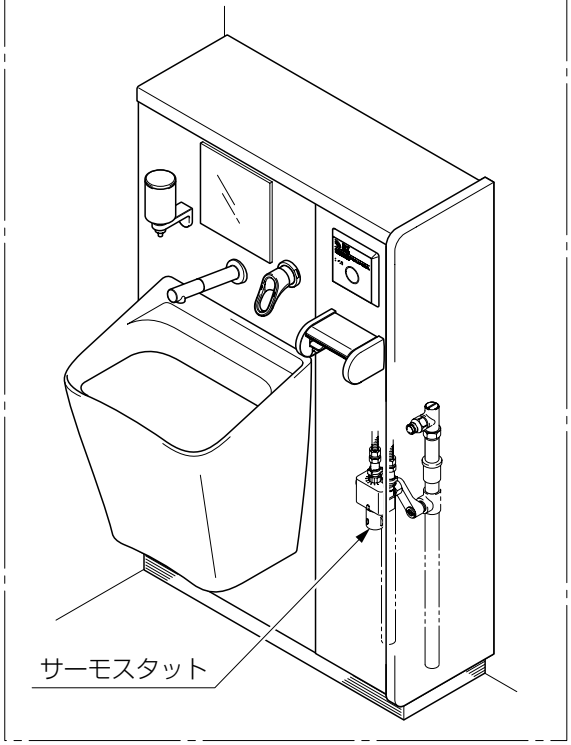


※頭はタンク仕様、水道水仕様、電気温水器あり仕様の場合

フラッシュバルブ仕様の場合



電気温水器なし仕様の場合



●安全上のご注意

●ご使用の前に、この「安全上の注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

●ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

用語および記号の説明

警告 ……「取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定されます。」

注意 ……「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うか又は物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。」

……「注意しなさい！」（上記の『警告』『注意』と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。）

禁止
……この表示は、してはいけない「禁止」の記号です。

分解禁止
……「分解してはいけません！」

接触禁止
……「指示した場所に触れてはいけません！」

指示実行
……この表示は、必ず実行していただく「強制」の記号です。

⚠ 警告

修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造は行わないでください。
※発火したり、異常作動してケガをする恐れがあります。

甲板の上に火のついたタバコを置かないでください。
※火災の恐れがあります。

甲板は修理点検時以外は開けたり、中に物などを置かないでください。
※火災・感電や漏水、また甲板が外れ落下してケガをする恐れがあります。

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っぱったり、ねじったり、束ねたり、重いものを載せたり、挟み込んだりしないでください。
※電源線が破損し、火災・感電の原因になります。

●フラッシュバルブ・配線が故障（異音・異臭・発煙・高温・割れ）した場合、ただちに電源を切り、修理を依頼してください。
※感電・火災の原因になります。
●フラッシュバルブ本体・給水部から漏水した場合、電源を切り、止水栓を閉めてください。
※感電・室内浸水の原因になります。

雷が発生しているときは、電源コードに触れないでください。
※感電の原因になります。

●温風器、ドライヤー等で熱を直接あてないでください。
●ストーブやヒーターなど熱を発生するものの近くに設置しないでください。
※変色や変形し、割れたり折れやすくなり、ケガをする恐れがあります。また火災をおこす原因になります。

フラッシュバルブ等の修理・点検・掃除の際は、必ず電源を切ってください。
※感電の原因になります。

甲板や便器の上に乗ったり重い物をのせたりしないでください。
※変形や破損したり、落下・転倒してケガをする恐れがあります。

電源プラグやタッチスイッチ等を水につけたり、水をかけないでください。水がかかった場合は、必ず電源切って、差し込みプラグを抜いてから乾いた布等でふいてください。
※ショート・感電の恐れがあります。

浴室など、湿気の多い場所には設置しないでください。
※感電、火災、故障の原因になります。

直接水をかけないでください。
※ショート・感電の原因になります。

コネクターの抜き差しは電源を切り、必ず乾いた手で行ってください。
※濡れた手で行うと、感電の原因になります。

交流100V以外では使用しないでください。
※火災の原因になります。

水道水（水道事業体が供給する上水）仕様の場合、水道水以外に接続しないでください。
また、中水仕様でも、オストメイト水栓や電気温水器には水道水をご使用ください。
※機械内部の腐食により感電・火災および皮膚の炎症の原因になります。

⚠ 注意

長時間使用しないときは電源を切ってください。
※漏水などの予想しない事故により、財産損害が発生する恐れがあります。

オストメイト対応流しにヒビが入ったり、割れたりしたら破損部は絶対に触らないでください。
※破損部でケガをする恐れがあります。早めに交換してください。

前板、甲板には酸性・アルカリ性および塩素系の洗剤類、ベンジン、シンナー、ラッカー、アルコールなどの溶剤や油類を使用しないでください。
また、直射日光に当たらないようにしてください。
※変色や変形の恐れがあります。（溶剤がつきますと跡が残ることがあります。）

断水により、給水管内に空気が混入した恐れのある場合は、本説明書（P．40）の手順にしたがい、エア抜きを行ってください。
※エアが混入したまま使用すると、オストメイト対応流しなどが破損し、使用者がケガをする恐れがあります。

ご使用の前に、10秒程度お湯を流して水栓内部の水を新しくしてください。毎日、その日のご利用開始前に、1分程度オストメイト水栓からお湯を流して、電気温水器内の水を新しくしてください。

製品やオストメイト対応流し、甲板等に硬いものを落としたり衝撃を与えないでください。また、便器に熱湯をかけないでください。
※破損しケガをしたり、漏水し財産損害が発生する可能性があります。

オストメイト対応流しに油などを流さないでください。
※排水管が腐食し、漏水の恐れがあります。

オストメイト対応流し以外にはトイレ用洗剤は使用しないでください。
※他の部分に使用すると破損してケガをする恐れがあります。
※ガラス質を侵すフッ素化合物入の洗剤は表面が侵されますのでお使いにならないでください。

メンテナンスの際は手袋を着用してください。
※手を切ってケガをする恐れがあります。

電気温水器等の商品は、それぞれに添付されている取扱説明書、および本体の注意表示に従ってお使いください。
※誤った使い方をすると、思わぬ事故や故障の恐れがあります。

電気温水器を取り外すときは、あらかじめオストメイト水栓から吐水し、電気温水器内の湯を出しきってください。
※水抜き時にヤケドをする恐れがあります。

鉛筆、ボールペンその他の異物を誤ってオストメイト対応流し内に落とした場合は、水を流す前に必ず拾い出してください。また、ストーマ装具等の異物、新聞紙、紙おむつ、ティッシュペーパー、生理用品、詰まりやすいものは流さないでください。
※オストメイト対応流し、排水管が詰まり汚水があふれる恐れがあります。

⚠ 注意

オストメイト対応流しにはトイレットペーパー以外は流さないでください。
※排水管が詰まり、汚水があふれてトイレ内などを汚す原因となります。

万一詰まった場合には、市販の吸引器（商品名：ラバーカップ）を使って取り除いてください。
※詰まったまま水を流すと、オストメイト対応流しから汚水があふれます。

フラッシュバルブのピストンの掃除をする際は、止水栓または元栓を閉めてから行ってください。
※水が噴き出し、家財などを濡らす財産損害発生の恐れがあります。また、この作業の前に必ず電源が切ってあることを確認してください。

凍結の恐れがある場所では、使用しないでください。
※凍結破損により漏水の原因になります。

定期的に配管のまわりを見て水漏れがないことを確認してください。
※部品の劣化、磨耗などによる水漏れにより、家財などを濡らす財産損害発生の恐れがあります。

衝撃をあたえたり、もたれかかったりしないでください。
※破損してケガしたり、漏水や故障の原因となります。

凍結が予想される際は、室内を保温して氷点下にならないようにしてください。
※凍結破損で漏水し、家財等を濡らす財産損害発生の恐れがあります。

吐水口先端に重いものを下げたり力をかけて回したりしないでください。
※破損する恐れがあります。

吐水口部引き出し口に直接水をかけないでください。
※水がキャビネット内に進入し、家財等を濡らす財産損害発生の恐れがあります。

レバーハンドル操作の急閉止は配管からの漏水を起こすことがありますのでゆっくり操作してください。
※漏水で家財等を濡らす財産損害発生の恐れがあります。

メッキ面のハガレはそのまま放置しないでください。
※メッキ面のハガレやキズでケガをする恐れがあります。

【サーモスタット付の場合】

月1回は、温度調節ハンドルを回してください。
※温度調節ハンドルを長期間回さずに使用すると機能部に水あかなどが付着し、温度調節機能が損なわれる恐れがあります。

■ヤケドをしないために

⚠ 警告

【電気温水器の場合】

通水温度は45℃以上にしないでください。なお、誤動作などによるヤケド防止のため、40℃以下をおすすめします。

※水栓が破損し、ヤケドや家財を濡らす恐れがあります。

【サーモスタット付の場合】

給湯機器の温度設定は85℃以上にしないでください。

※水栓が破損し、ヤケドや家財を濡らす恐れがあります。なお、誤動作などによるヤケド防止のため、60℃給湯をおすすめします。

ストレーナーの掃除をする際はいきなりストレーナーを緩めずに止水栓を閉めてから行ってください。（P.19参照）

※閉じずに作業を行うと湯・水が噴出してヤケドをしたり、家財などを濡らす財産損害発生の恐れがあります。

小さいお子さまだけでの使用は避けてください。

※ヤケドやケガをする恐れがあります。

他所の水栓の同時使用等により圧力変動が起こり、お湯の使用中に湯温が急上昇することがあります。

※同時使用のないように注意しないと、ヤケドやケガをする恐れがあります。

【サーモスタット付の場合】

温度調節ハンドルの表示で湯温を確かめた後、吐出してください。

※高温の湯が出て、ヤケドをする恐れがあります。

【サーモスタット付の場合】

温度調節ハンドルを急に回すと、温度が急上昇することがありますので、ゆっくり回してください。

※ヤケドをする恐れがあります。

【サーモスタット付の場合】

給水圧力は給湯圧力より必ず高くしてください。

※正常な温度調節ができなくなり、ヤケドをする恐れがあります。

定期的に配管の漏水やガタツキがないか確認してください。

※部品破損によりヤケドやケガをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生の恐れがあります。

修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造は行わないでください。

※ケガをしたり、故障・破損の恐れがあります。

■結露の注意

室温とオストメイト対応流しの表面温度差や湿度により、オストメイト対応流しの表面に水滴が生じることがあります。(結露) 結露を防ぐためには、部屋の換気を十分に行ってください。なお、結露水が生じた場合は、乾いた布でふき取ってください。

※結露水は床のしみや破損の原因になります。

■ハイパーキラミック抗菌商品についての注意

本商品のオストメイト対応流しはハイパーキラミック抗菌商品です。

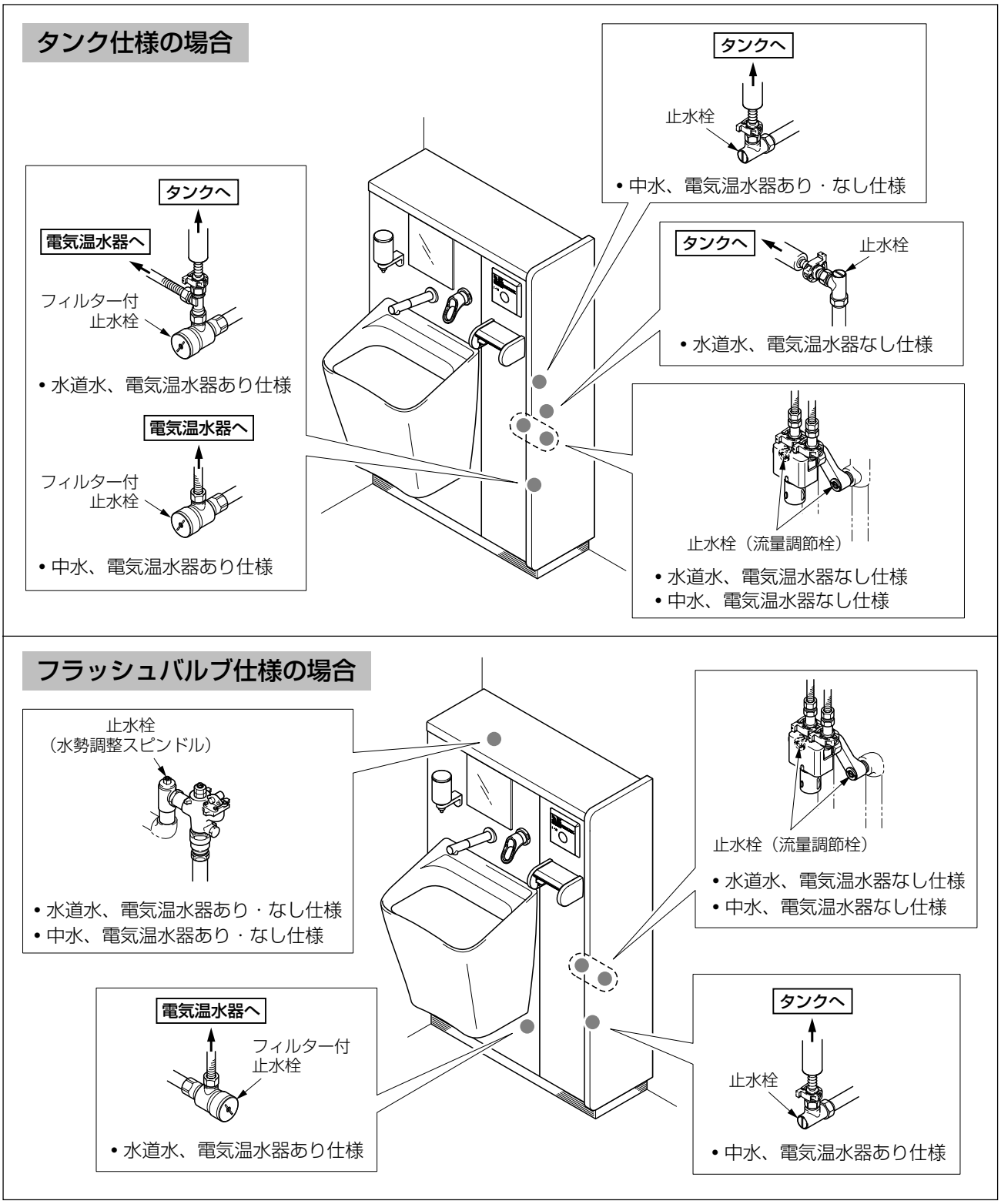
1. ハイパーキラミック抗菌商品は表面に菌が付着したときに抗菌効果を発揮し、菌の働きによる汚れの生成を抑制します。ホコリ・油膜等が表面を覆った場合、この上に付着する菌に対しては十分な抗菌効果を発揮できません。
2. ハイパーキラミック抗菌商品は菌の繁殖を抑制する効果を持ちますが、菌がまったくなくなるわけではありません。したがって、本商品により感染等が完全に防げるわけではありません。

●ご使用前の確認

■止水栓の確認

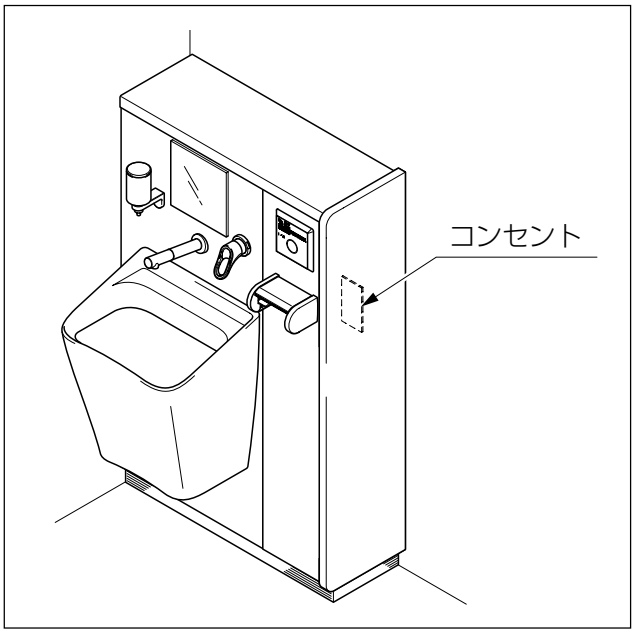
●各機器を操作して正常に水が出る（止水栓が開いていること）ことを確認してください。
止水栓が閉まっている場合は、マイナスドライバーなどで止水栓を開けてください。
適正流量につきましては施工説明書をご覧ください。

右に回転・・・水勢が弱くなる
左に回転・・・水勢が強くなる



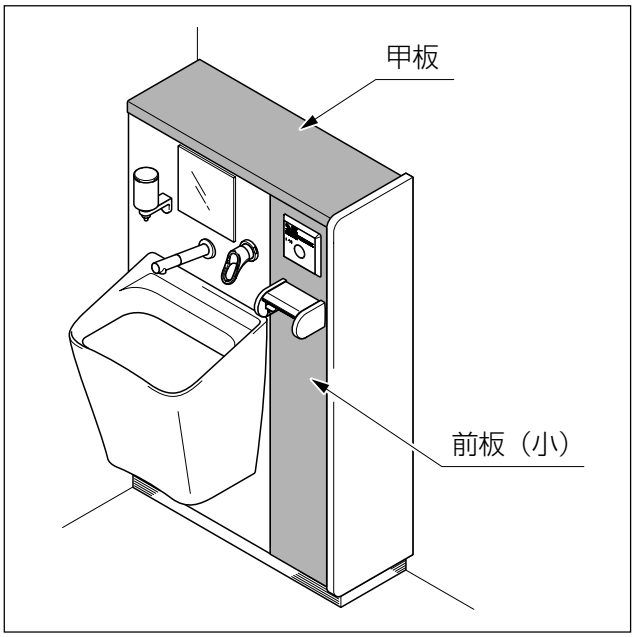
■コンセントの位置

●コンセントに電源プラグが根元まで差し込まれていることを確認してください。



■点検口となる前板、甲板の位置

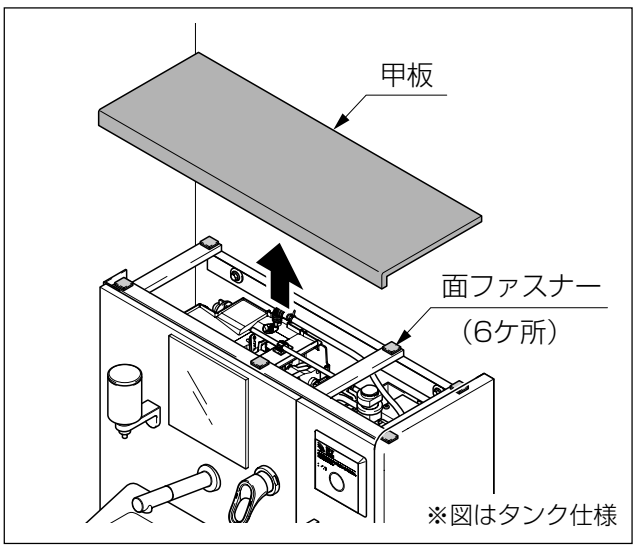
●アミ掛け部の前板、甲板は点検時に取り外します。



〈甲板の取外し方〉

甲板は面ファスナー（6ケ所）で固定されています。
上に引き上げて取り外してください。

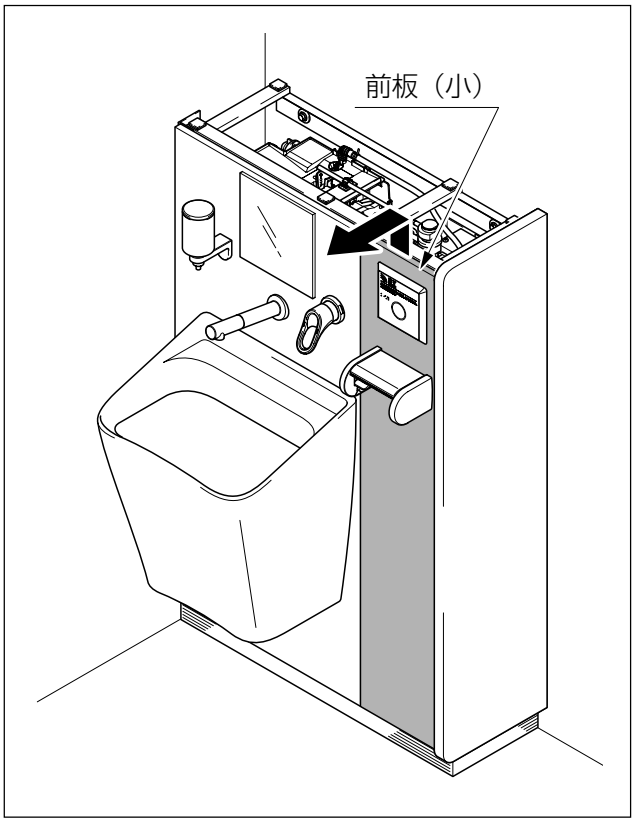
●取り付けは、甲板をフレームに乗せ、面ファスナー部（6ケ所）を上から軽くたたいて圧着固定してください。



〈前板（小）の取外し方〉

1．甲板を取り外します。
2．前板（小）を上に軽く引き下げて取り外してください。
※タッチスイッチのコードが接続されていますので、前板を無理に動かさないでください。必要な場合は、タッチスイッチのコネクターを外してください。

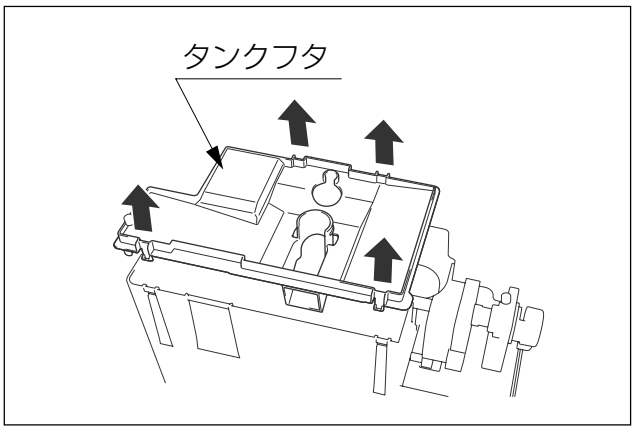
●取り付けは取外しの逆の手順で行ってください。



■タンクフタの脱着のしかた（タンク仕様の場合）

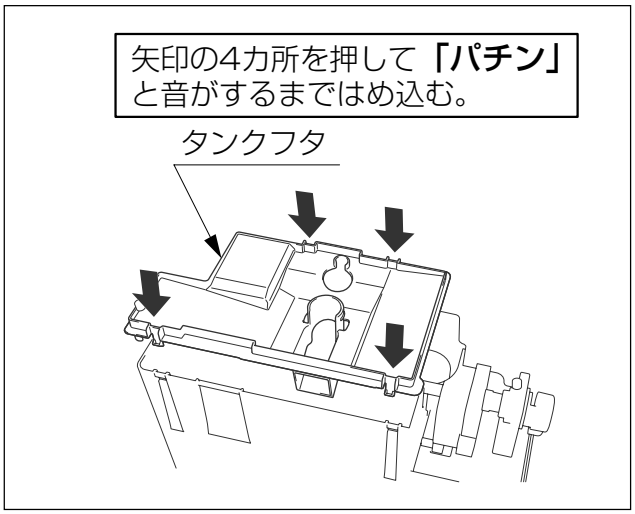
〈外し方〉

1．甲板を取り外します。（P．10参照）
2．タンクフタのツメ４ケ所を外して取り外します。



〈外付け方〉

1．矢印の４ケ所を押して「パチン」と音がするまではめ込みます。



■止水位の調節（タンク仕様の場合）

●甲板、タンクフタを取り外します。（P．10、11 参照）

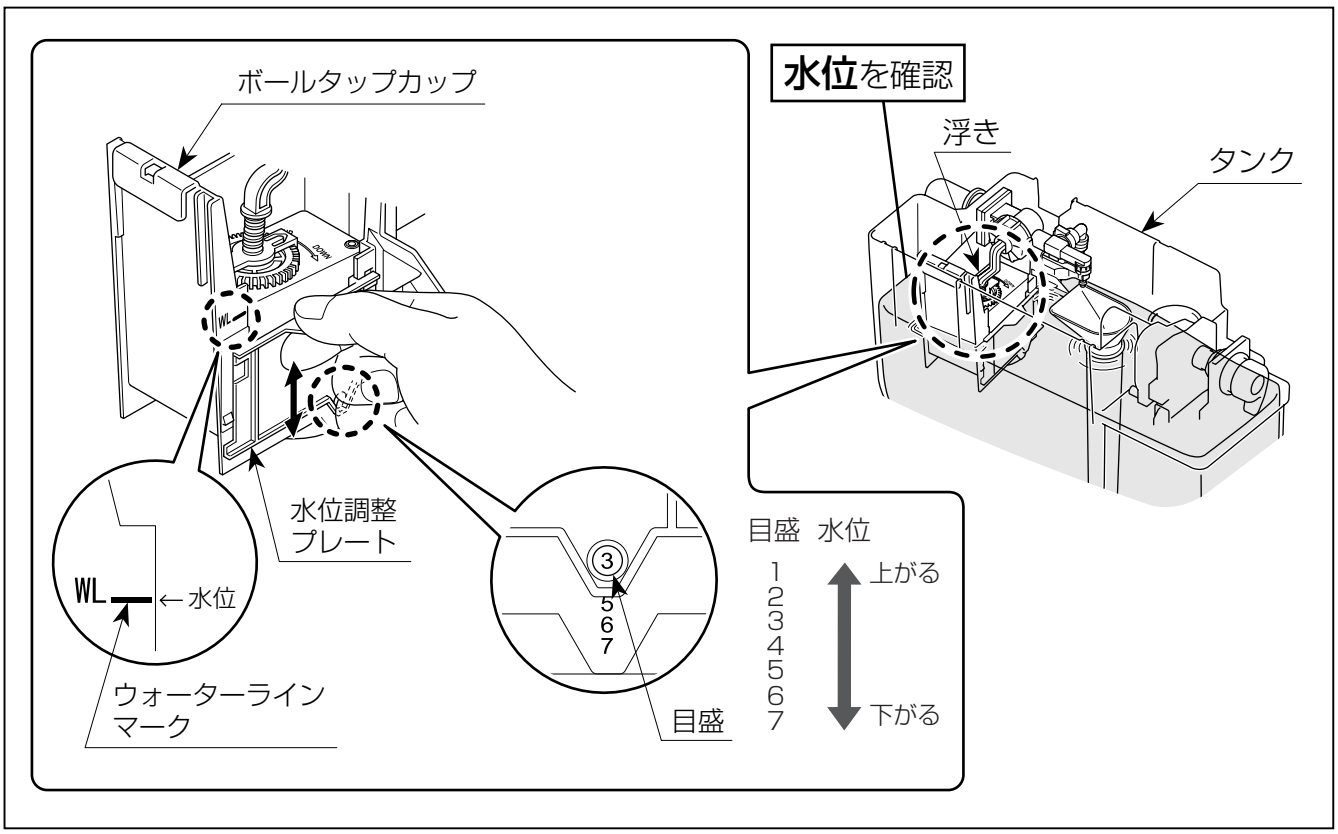
●タンク内の止水位（水面）がボールタップカップのウォーターラインマークに合っていることを確認してください。

※止水位がウォーターラインマークに合っていない場合は、水位調整プレートを上下に動かし水位調節してください。

●水位を下げる場合は、下へ動かし目盛の数値を大きくする。（例：調整前３→調整後４）

●水位を上げる場合は、上へ動かし目盛の数値を小さくする。

●調節後、鉢内洗浄を行ない、止水位を確認してください。
確認後は、タンクフタ、甲板を元通り取り付けます。

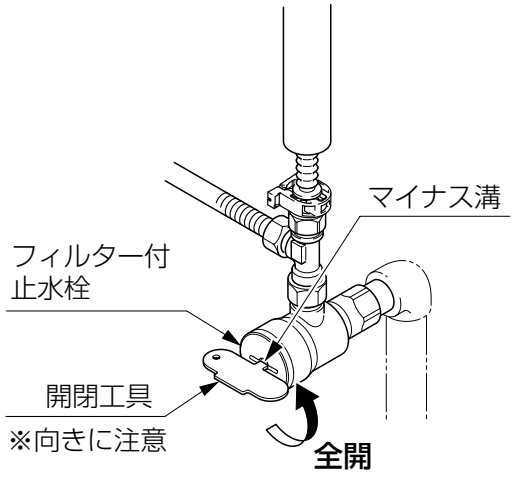


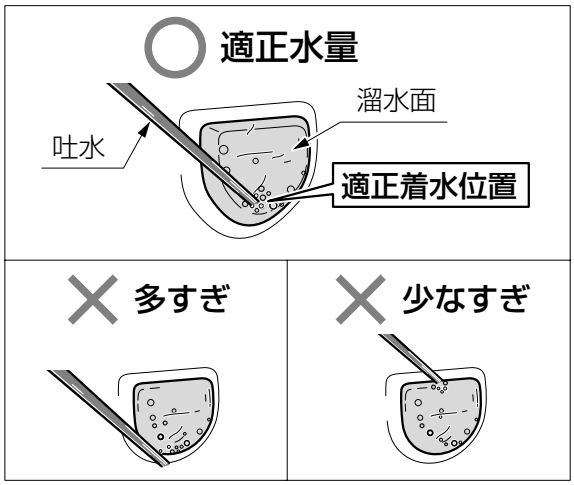
■流量の調節

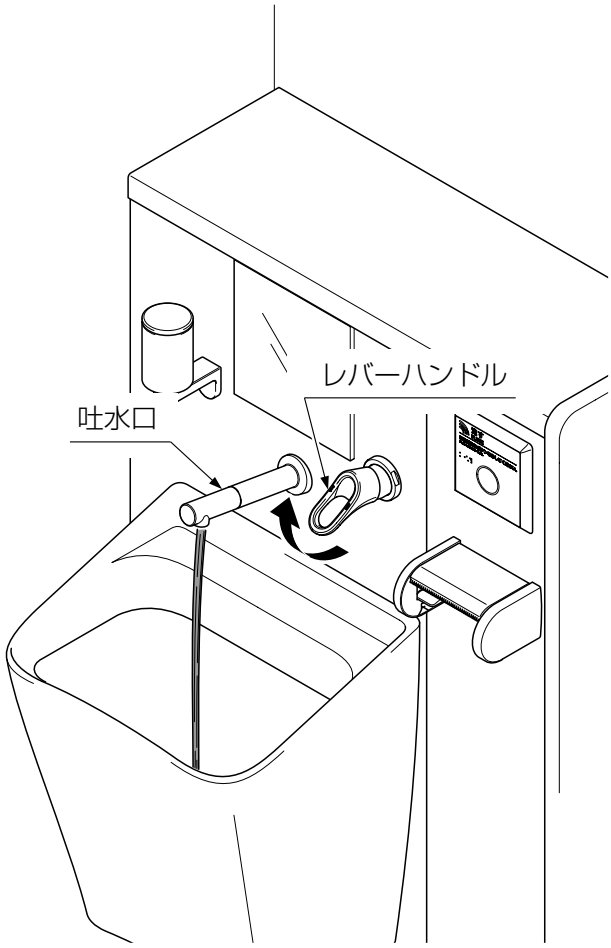
【電気温水器あり仕様の場合】

オストメイト水栓の適正水量は2.5～3.5L/分です。下記を目安に水量調整を行なってください。

レバーハンドルを全開にし、吐水の着水位置が、溜水面の先端からほぼ1/3になるように、**止水栓**を調節します。







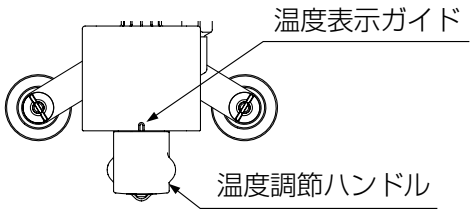
ポイント

- 吐水はじめに、少量の水が出て一瞬とまり、その後本吐水します。これはバキュームブレーカーと吐水口の間に残った水が、吐水口から排出されるためで、故障ではありません。
- 水栓のレバーハンドルを閉じたあと、吐水口からしばらく水が垂れることがあります。これは水栓内部の残留水が排出されるためであり、故障ではありません。

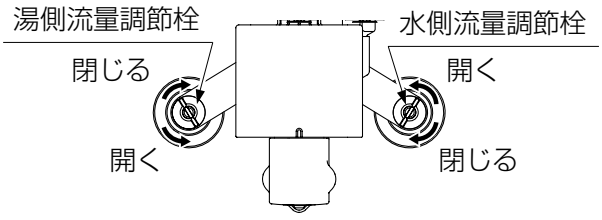
【電気温水器なし仕様の場合】

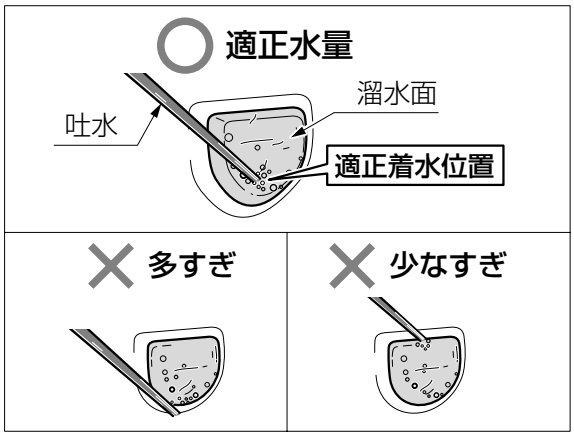
1 水量調節

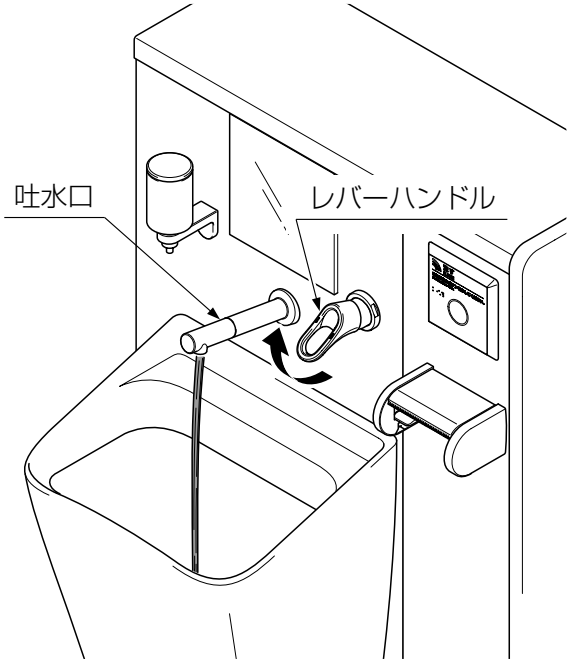
1. 温度制御部の温度調節ハンドルを**最低温度**にします。



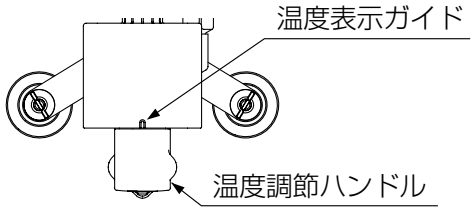
2. レバーハンドルを**水側全開にし、**吐水の着水位置が、溜水面の先端からほぼ1/3になるように**水側流量調節栓**を調節します。







3. レバーハンドルを元の位置に戻して止水し、次に温度調節ハンドルを**最高温度**にします。



4. 上記と同様にレバーハンドルを**湯側全開にし、**（今回は**湯側流量調節栓**）流量を調節します。
   ※流量調節後は快適にご使用いただくため、温度調節ハンドルを「40℃」の位置にもどしておいてください。
5. 湯水の流量を調節後、レバーハンドルを中央の位置で全開にしたとき、流量が多い場合は、湯水の流量が同じになるように流量調節栓を徐々に絞って調節してください。

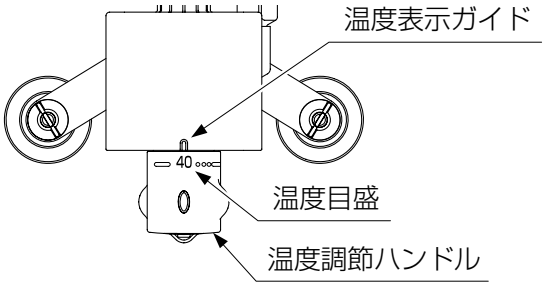
ポイント

- **吐水はじめに、少量の水が出て一瞬とまり、その後本吐水します。これはバキュームブレーカーと吐水口の間に残った水が、吐水口から排出されるためで、故障ではありません。**
- **水栓のレバーハンドルを閉じたあと、吐水口からしばらく水が垂れることがあります。これは水栓内部の残留水が排出されるためであり、故障ではありません。**

2 吐水温度の確認

温度調節ハンドルは、工場で調整していますが、使用条件（給水・給湯圧力、給湯温度）が異なると、表示通りの温度が出ないことがあります。
吐水温度が表示通りになっているか以下の要領で確認します。

温度調節ハンドルの温度目盛「40」を温度表示ガイドに合わせ、水栓レバーハンドルを湯側にして吐水口から吐水させる。



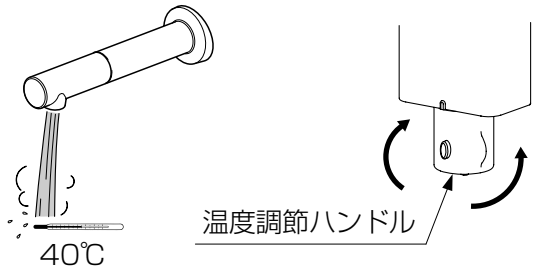
吐水温度が表示通りの場合
そのままご使用可能。

吐水温度がズレている場合
「3 温度調節ハンドルの調整」**に進む。**

3 温度調節ハンドルの調整

温度調節ハンドルの温度目盛と吐水温度が合わない場合は、温度調節ハンドルの調整を行なってください。

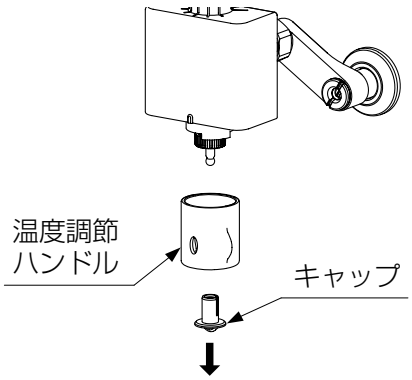
1. 吐水温度が温度目盛には関係なく40℃になるように、温度調節ハンドルを回します。



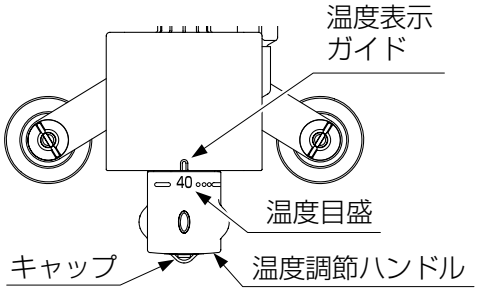
2. 吐水温度が40℃になったところで止水し、温度調節ハンドルが回転しないように注意して、キャップ、温度調節ハンドルを抜きとります。

ポイント

キャップを外すと、温度調節ハンドルは手で引っぱるだけで外れます。



3. 抜きとった温度調節ハンドルの温度目盛「40」が温度表示ガイドに合うように温度調節ハンドルをはめて、キャップをはめ込む。



■オストメイト対応流しの洗浄水量の調節（フラッシュバルブ仕様の場合）

●甲板を取り外し（P．10参照）、止水栓を全開にします。

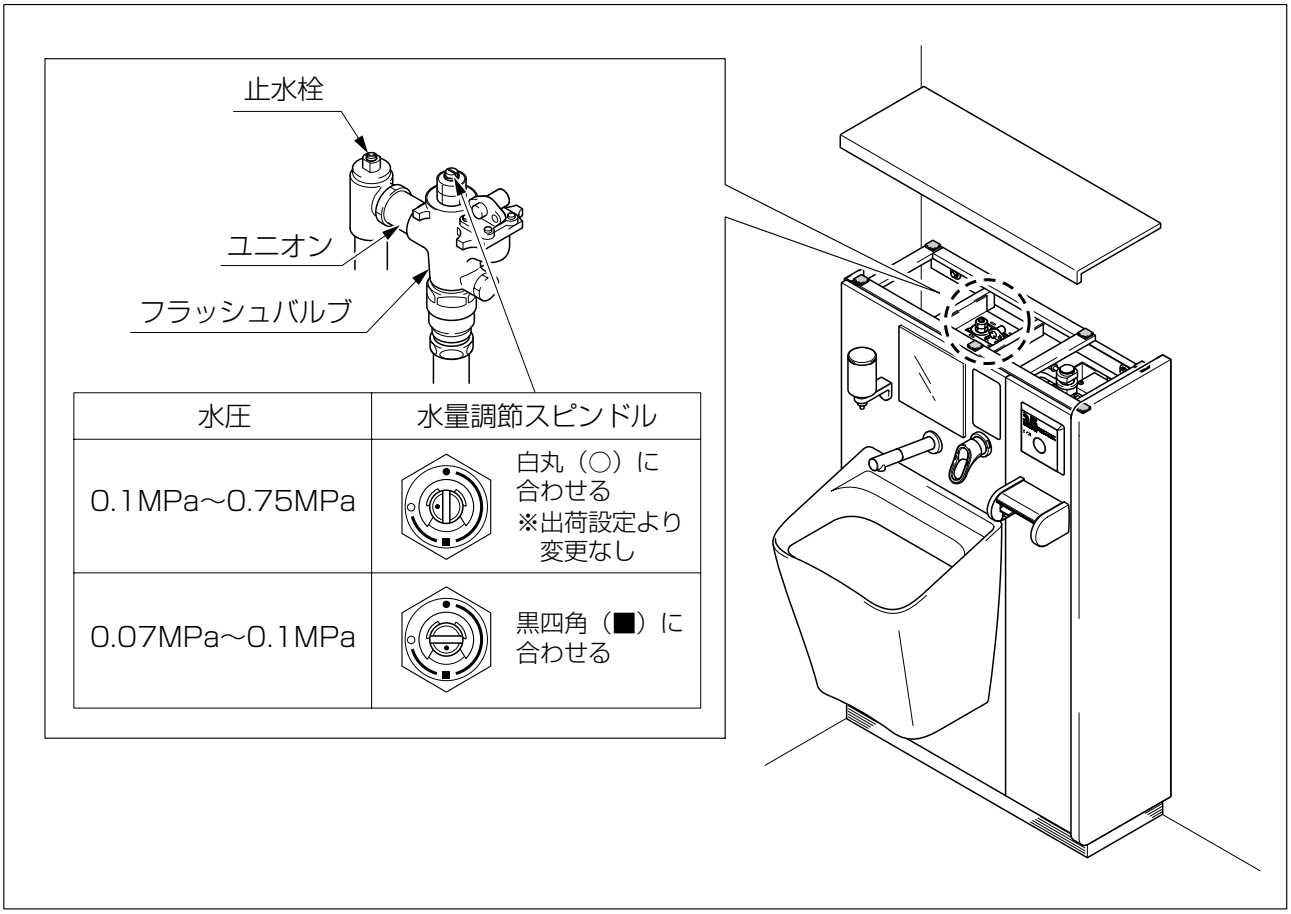
●水圧0.07MPa以上0.1MPa（流動時）未満の場合は、水量が減少し機能低下の可能性があるため、水量調節スピンドルを黒四角（■）に合わせてください。

注意

タッチスイッチのスイッチ番号は変更しないでください。

●フラッシュバルブを操作して陶器鉢内を洗浄し接続部に水漏れがなく鉢内洗浄が良好であることを確認してください。

※鉢内洗浄の良否は長さ760mmのトイレットペーパーを丸めたもの7個が1回の操作で無理なく排出できるかどうかで確認してください。

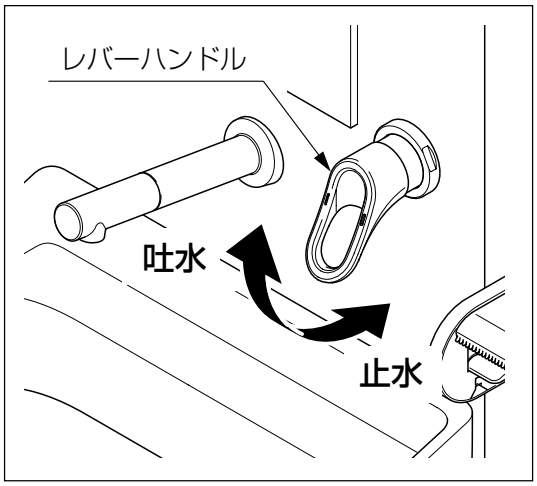


●ご使用方法

紙巻器、電気温水器のご使用方法は、各機器に同梱の取扱説明書をご参照ください。

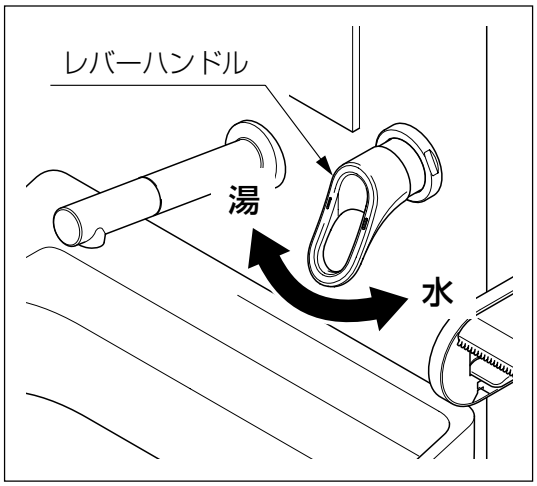
■水栓の使い方

●レバーハンドルを上げると吐水し、上げ具合で吐出量を調節できます。
レバーハンドルは左右どの位置でも下げると止水します。

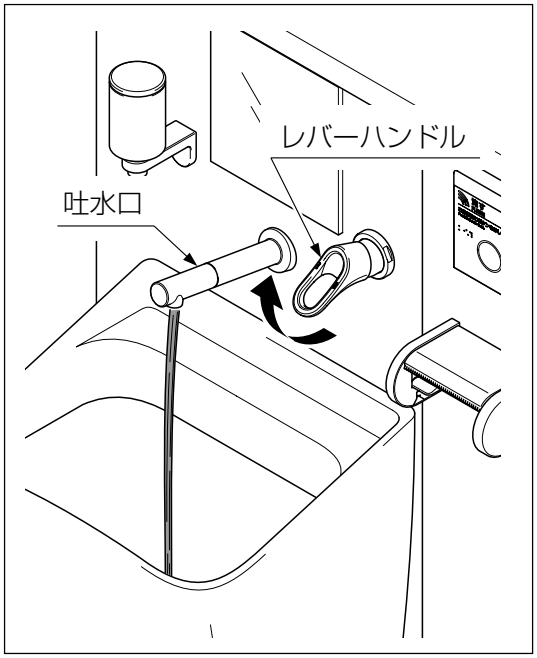


●吐水温度の調節は、レバーハンドルを左右に回して調節してください。

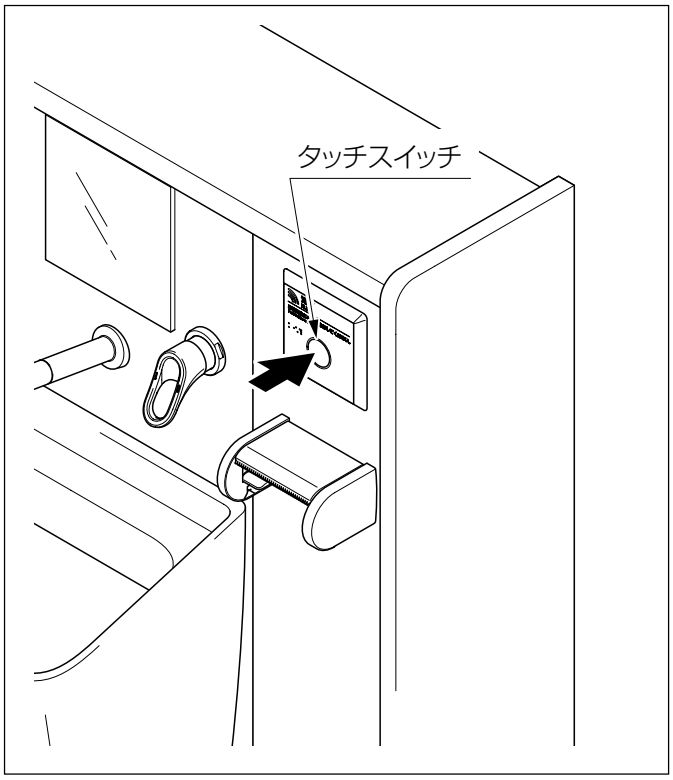
左回し：温度が上がる
右回し：温度が下がる



●ご使用の前に、吐水口から 10 秒程度お湯を流して水栓内部の水を新しくしてください。
●毎日、その日のご利用開始前に、1 分程度吐水口からお湯を流して、電気温水器内の水を新しくしてください。（電気温水器付の場合）



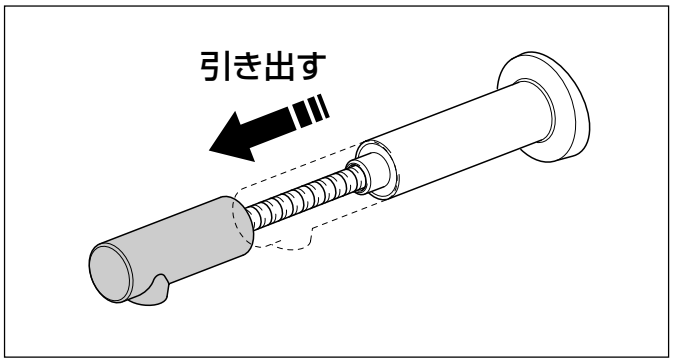
●ご使用後はタッチスイッチを押し、鉢内を洗浄してください。



●電源投入直後と最後の洗浄から 24 時間経過したとき、設備保護のために一度洗浄を行います。（設定で止めることも可能です）
●一度洗浄を行うと 10 秒間経過しないと次の洗浄を行いません。

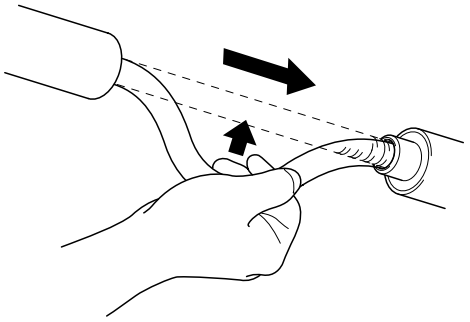
■引出し式吐水口の使いかた

吐水口は引き出してもお使い頂けます。



ポイント

●吐水口部の出し入れがしにくいときは、シャワーホースに手をそえて収納してください。
●寒い時期、吐水口の出し入れが固いときは、しばらくの間ホースにお湯または水を通水してください。



■止水栓の調節のしかた

●各種点検やシャワートイレを外してお手入れする場合に、止水栓を（フィルター付き止水栓の場合は付属の開閉工具、他タイプの止水栓の場合はマイナスドライバー等）で操作して、水を止めることができます。止水栓の位置は、P．９を参照ください。

※止水栓を全開にする場合は、固着を防ぐため、1/4 回転程度戻しておいてください。

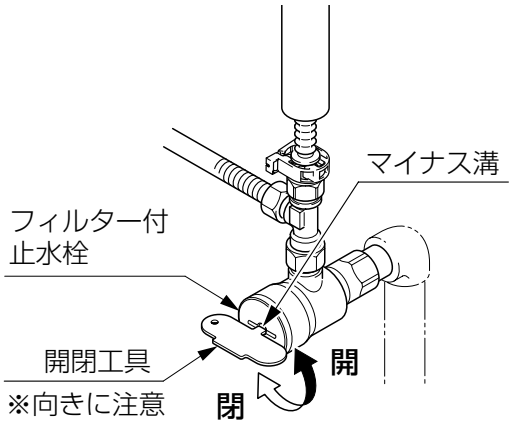
※止水栓を閉めておく場合は、軽く締めた後、さらに 1/4 回転程度（目安）締めてください。

注意

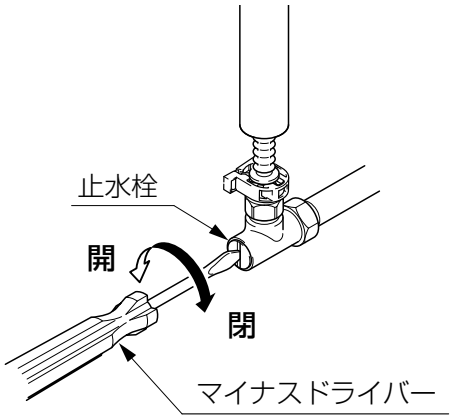
止水栓のマイナス溝に合ったマイナスドライバーを使用してください。
※マイナス溝は樹脂製ですのでキズをつける恐れがあります。

●甲板、前板（小）を取り外して操作してください。（P．10、11 参照）

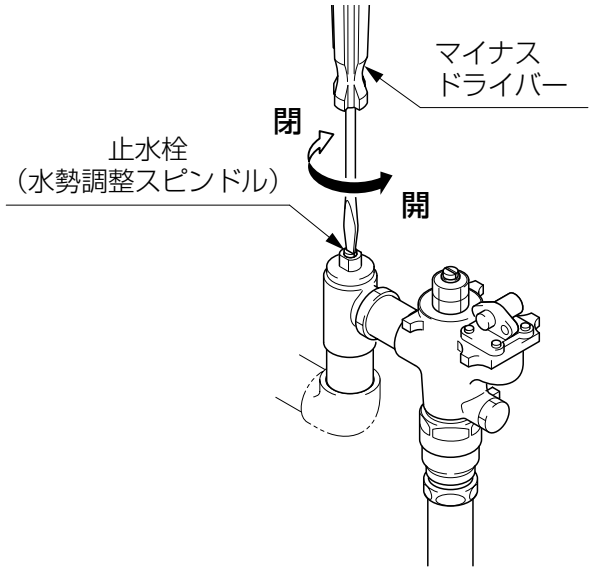
【フィルター付止水栓】



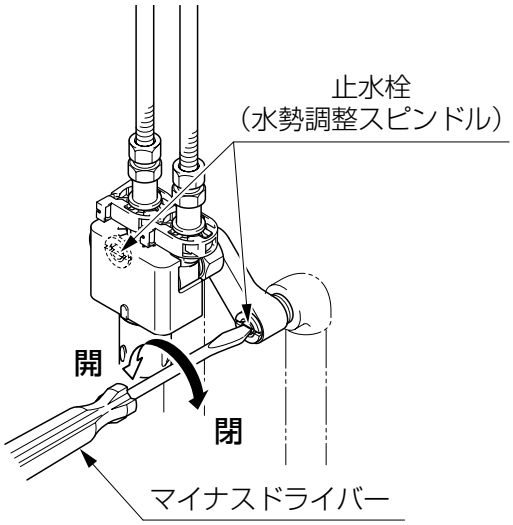
【止水栓】



【フラッシュバルブ止水栓】



【サーモスタット止水栓】

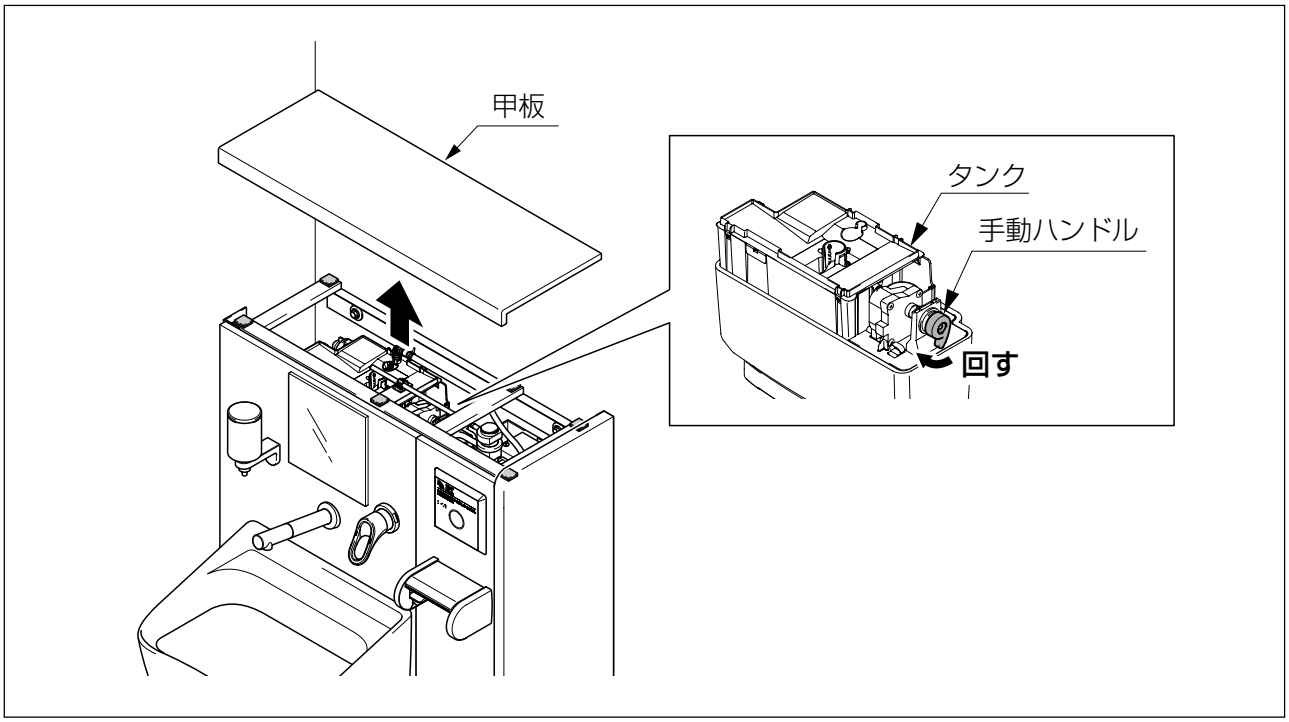


■停電したときの鉢内の洗浄のしかた

●停電時およびリモコン電池切れのときなどは、

タンク仕様の場合は、甲板を開け（P.10 参照)、タンク横の手動ハンドルを回してください。

フラッシュバルブ仕様の場合は、次ページの「■断水したときの鉢内の洗浄のしかた」と同様に行なってください。



注意

●一回目の鉢内洗浄から間をおかずに二回目を行なうと洗浄ができない場合があります。
このようなときは、しばらく間をおいてから鉢内洗浄操作してください。
●洗浄水量は現場水圧条件や施工条件等により変動することがあります。

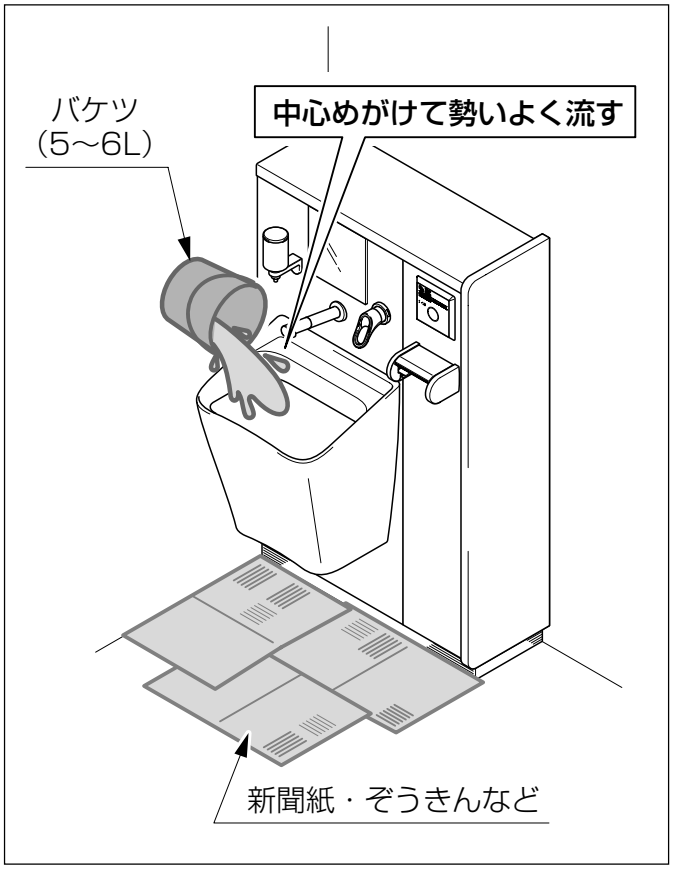
■断水したときの鉢内の洗浄のしかた

●バケツ一杯（5～6L）の水を、水とびに注意しながら一気に流し込んで汚物を排出してください。最後に鉢内の水位が通常の高さになるように３～４Lの水を注いでください。

※うまく汚物が流れないときは、流し込みをより早く（短時間に一気に）して、再度行なってください。

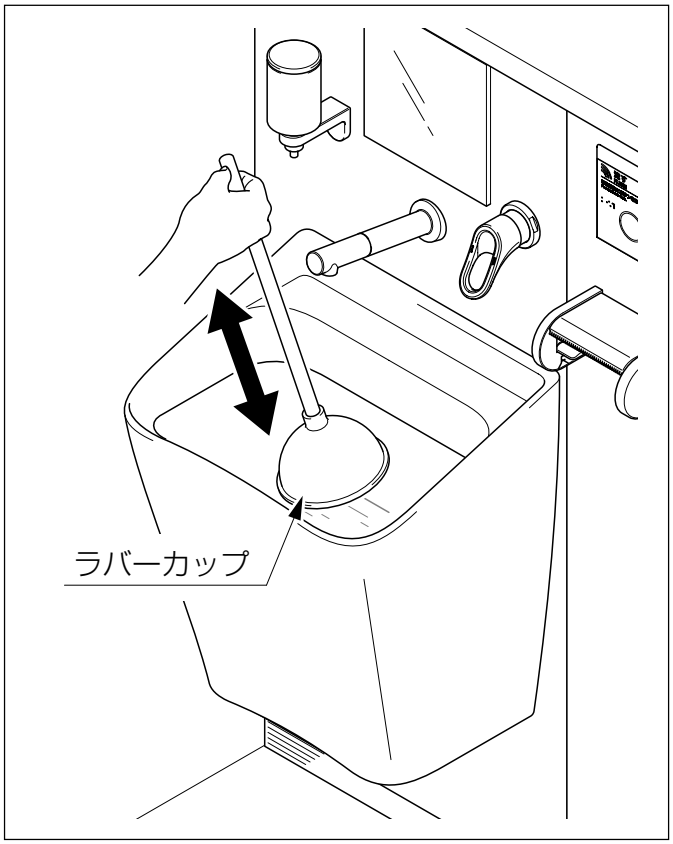
注意

●バケツで水を運ぶとき、鉢内へ水を流すときなど、床に水がこぼれないように十分気をつけてください。
●コンセント等に水がかからないようにご注意ください。



■オストメイト対応流しが詰まったとき

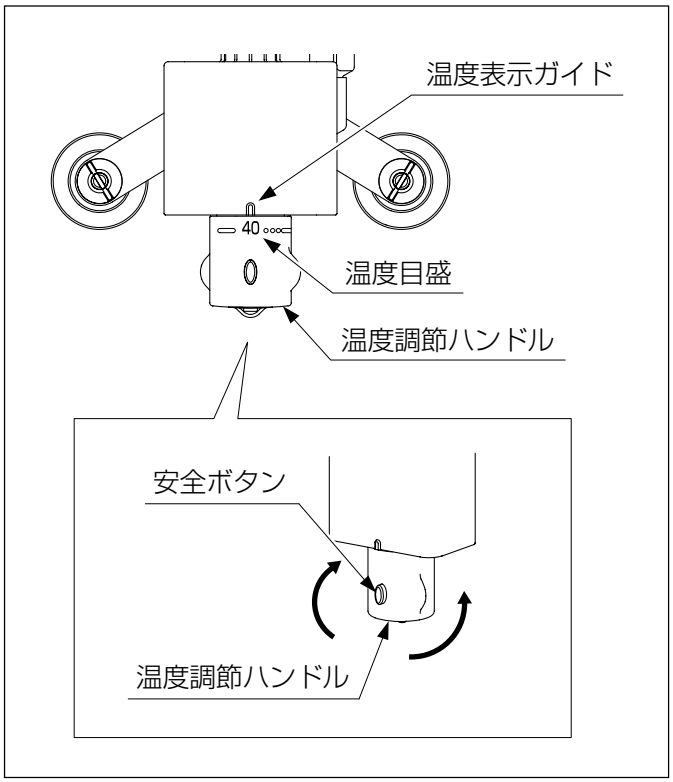
●市販のラバーカップを使用し、次の要領で詰まりを取り除いてください。
鉢内の排水口をふさぐように、ラバーカップを静かに押し付け、勢いよく手前に引いたり押したりを数度くり返してください。このとき、透明なビニールでカバーしておくと汚水の飛びちりを防ぐことができます。



■給湯温度の調節（サーモスタット付の場合）

1．甲板、前板（小）を取り外します。
（P．10、11 参照）

2．サーモスタットの温度調節ハンドルを右に回すと高温（最高約50℃）に、左に回すと低温（水温）になります。
※安全ボタンの働きで高温側に回すと「40」の表示のところで一度温度調節ハンドルが止まります。
40℃以上の吐水温度が必要な場合は、安全ボタンを押しながら回してください。



●お手入れ方法

紙巻き器や電気温水器のお手入れは、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

■日常のお手入れについて

いつまでもご愛用いただくために普段のお手入れは、次のことに注意してください。

⚠警告

電源プラグやタッチスイッチ等を水につけたり、水をかけないでください。水がかかった場合は、必ず電源を「切」にして、差し込みプラグを抜いてから乾いた布等でふいてください。

※ショート・感電の恐れがあります。

本品に直接水をかけないでください。

※ショート・感電の恐れがあります。

⚠注意

洗剤はそれぞれの使用説明書に従い、定められた方法で定められた用途にお使いください。

※樹脂が割れてケガをしたり、洗剤がまざって有毒ガスが発生する恐れがあります。

●汚れは、乾いた柔らかい布でふき取ってください。それでも落ちないときは、水ぶきし、最後にからぶきしてください。

注意

水栓の表面を傷める恐れのある以下のものは使用しないでください。

- **クレンザー、磨き粉等の粒子を含んだ洗剤**
- **シンナー、ベンジン等の溶剤**
- **酸性洗剤、アルカリ性洗剤、塩素系漂白剤**
- **ナイロンたわし、ブラシ等**

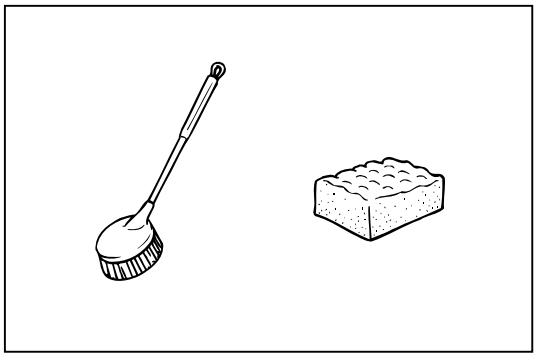
※ヒビ割れや変色の原因となります。
まちがって使用した場合は、すぐに水洗いしてください。

●メラミンフォームをご使用されるときは、あまりきつくこすり過ぎるとキズがつくことがありますのでご注意ください。

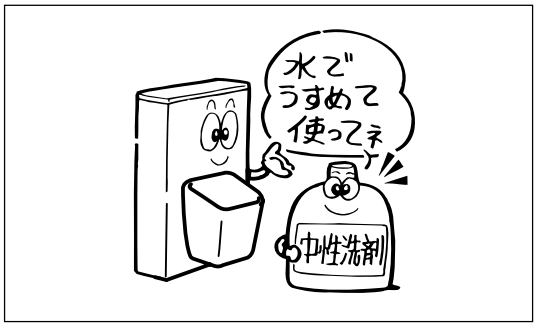
●壁面のタイル等をカビ取り剤等で洗浄した場合は、タイルおよび水栓を十分水洗いしてください。

●オストメイト対応流しのお手入れは、樹脂製のブラシやスポンジを用いて中性洗剤と水、またはぬるま湯で洗ってください。熱湯を汚物流しに注ぎますと割れることがありますのでおやめください。

※ガラス質を侵すフッ素化合物入の洗剤は表面が侵されますのでお使いにならないでください。

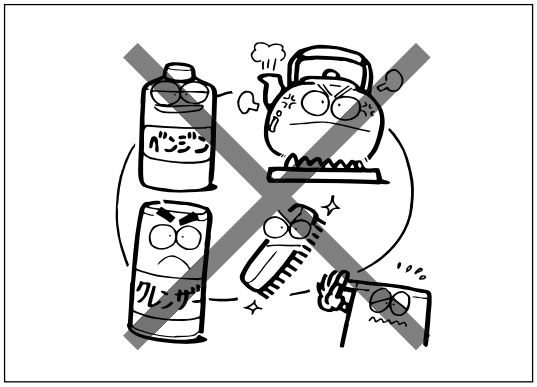


●前板、甲板を掃除の際は中性洗剤をうすめた液（100倍程度）を布につけ、固く絞ってふいてください。洗剤使用後は水道水に湿らせた布でふきとり、最後に柔らかい布でからぶきしてください。



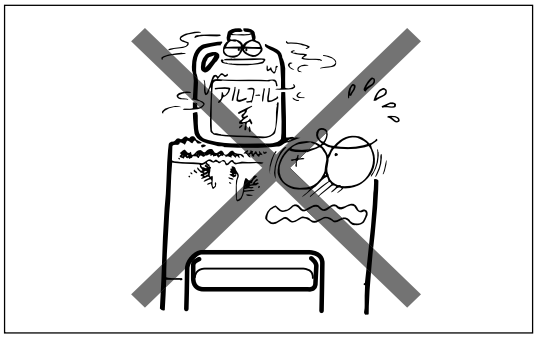
●前板、甲板表面の変色や変質の原因になる以下のものは使用しないでください。

- 中性洗剤以外の洗剤
- 酸、アルカリ
- 熱湯
- クレンザー、磨き粉
- シンナー、ベンジン等の溶剤
- 金属たわし、硬いブラシ、硬い布



●甲板の上にアルコール系薬品や酸性系洗剤を置かないでください。

※変質の恐れがあります。



⚠注意

本体やオストメイト対応流し、甲板に硬いものを落としたり衝撃を与えないでください。また、オストメイト対応流しに熱湯をかけないでください。

※破損しケガをしたり、漏水し財産損害が発生する可能性があります。

●保守点検方法

■点検前に

⚠警告

電気製品の保守点検を行う場合は、必ず電源を切って作業してください。
※感電する恐れがあります。

指示実行

⚠注意

保守点検の際は手袋を着用してください。
※手を切ってケガをする恐れがあります。

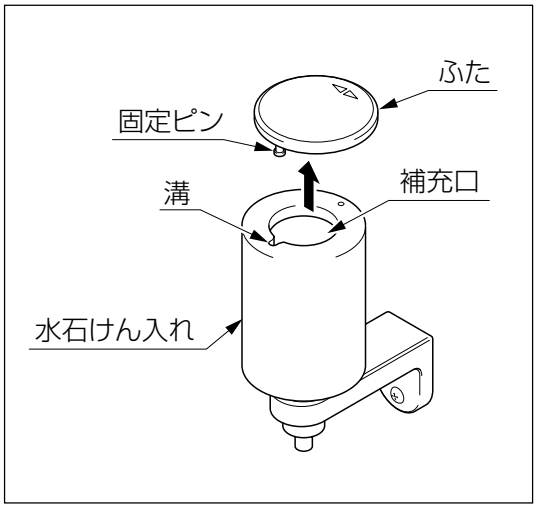
指示実行

■水石けんの補充

水石けん入れのふたを左右にひねるようにして取り外し、水石けんを補充してください。

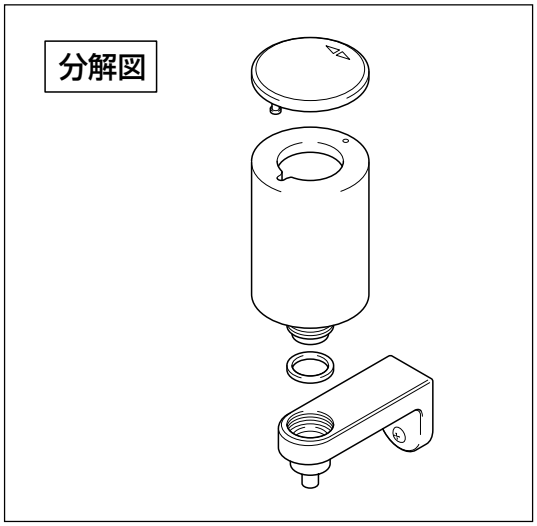
※水石けんは必ず水石けんメーカーの指定した濃度に希釈してご使用ください。
水石けんが固着し、吐出しなくなる場合があります。

※ふたの取付けは、固定ピンを補充口の溝にスライドさせるようにはめ込み、水石けん入れとズレがないように取り付けてください。(「カチッ」っと止まる位置に合わせてください。)



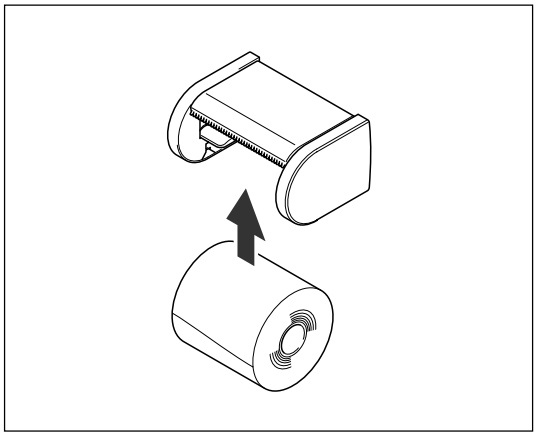
■水石けん入れの掃除

長期間使用しなかったり、水石けんの性質によって水石けんが固まり吐出しなくなる場合があります。その場合は内部を分解し、ぬるま湯で固まった石けん分をよく洗い流してください。



■トイレットペーパーの交換方法

トイレットペーパーを上へ持ち上げてセットします。



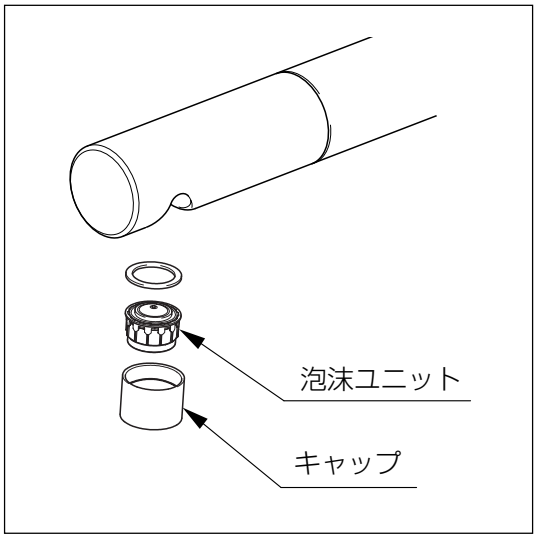
■水洗金具

メッキ部のハガレはそのまま放置しないでください。

※メッキ部のハガレやキズで手をケガをする恐れがあります。

■吐水口部の掃除

泡沫口の紛失を防ぐため、流しを布等で覆った後、工具で吐水口部のキャップを回して泡沫ユニットを取り外し、水で掃除してください。



■吐水口・レバーハンドル部のガタツキ（年２回以上）

吐水口・レバーハンドル部にガタツキがないか確認してしてください。

※吐水口・レバーハンドル部にガタツキがあるままお使いになると、配管に負担がかかり水漏れの原因になります。

吐水口・レバーハンドル部にガタツキがある場合は、お求めの取扱店・販売店または、LIXIL 修理受付センターへ修理をご依頼ください。

■定期的な点検について

通常の点検は、甲板を持ち上げ、取り外して（P.10 参照）行なってください。

■水まわりの水漏れ（年２回以上）

●水まわりの水漏れがないか点検してください。

●見えない部分は特に注意が必要です。

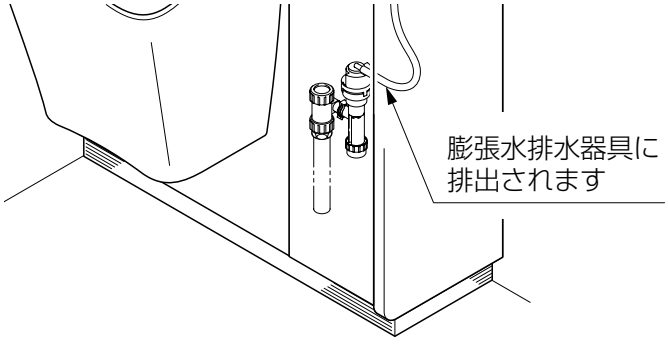
※劣化・磨耗などで部品が破損し、ケガをしたり、水漏れして家財等を濡らす財産損害発生の恐れがあります。
水漏れしている場合は、止水栓または元栓を閉め、お求めの取扱店・販売店または、LIXIL 修理受付センターへ修理をご依頼ください。

■バキュームブレーカーのあふれ水について

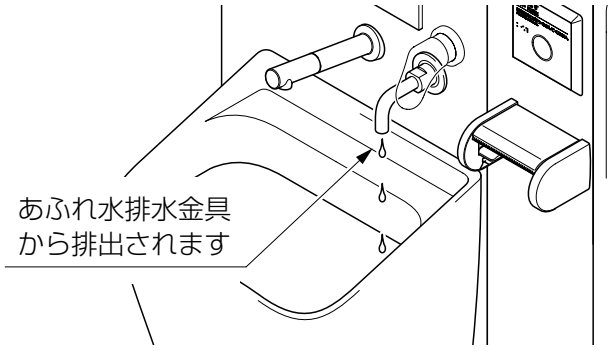
レバーハンドルが完全に閉まっていないと、水栓のバキュームブレーカーからあふれ水が出る場合があります。レバーハンドルを最後までしっかりと閉めてください。

【タンク仕様の場合】

【フラッシュバルブ仕様、電気温水器ありの場合】



【フラッシュバルブ仕様、電気温水器なしの場合】

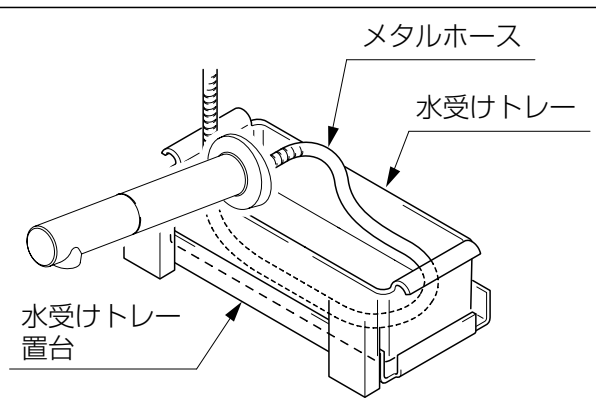


■膨張水排出について

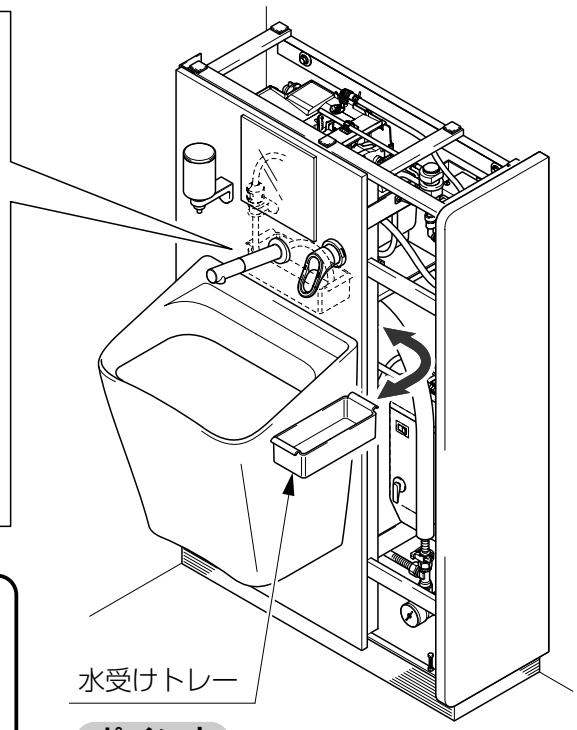
電気温水器のタンク内の水があたためられると体積が膨張し、40℃以下の水としてタンク仕様の場合は洗浄タンク内に、フラッシュバルブ仕様の場合は膨張水排出器具に排出されます。

■水受けトレーの点検（月１回程度）

甲板を取り外し（P.10 参照）、上から覗いて水受けトレーを点検してください。
水受けトレーに水が落ちていれば前板（小）を取り外し（P.11 参照）、トレーを取り出してふき取ってください。
水をふき取った後は、水受けトレーを元通りにセットしてください。

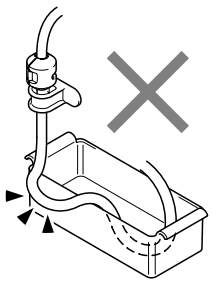


水受けトレーは、置台に正しく置いて吐水口のメタルホースをトレー内に納めてください。



注意

メタルホースが水受けトレーからはみ出したりしないようにしてください。
※吐水口がスムーズに引き出せなかったり、漏水の原因となります。



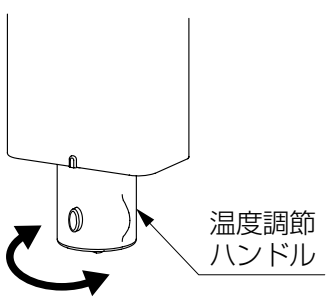
ポイント

●吐水口を引き出して作業してください。
●水受けトレーは、横からスライドして入れてください。

■温度調節ハンドルのお手入れ（サーモスタット付の場合、月１回以上）

サーモスタットタイプの場合、甲板、前板（小）を取り外し（P．10、11 参照）、サーモスタットの温度調節ハンドルを４、５回まわす。

※温度調節ハンドルを長時間回さずに使用を続けますと、温調機能部に水あかが付着し、温度の調節ができなくなる恐れがあります。



保守点検方法

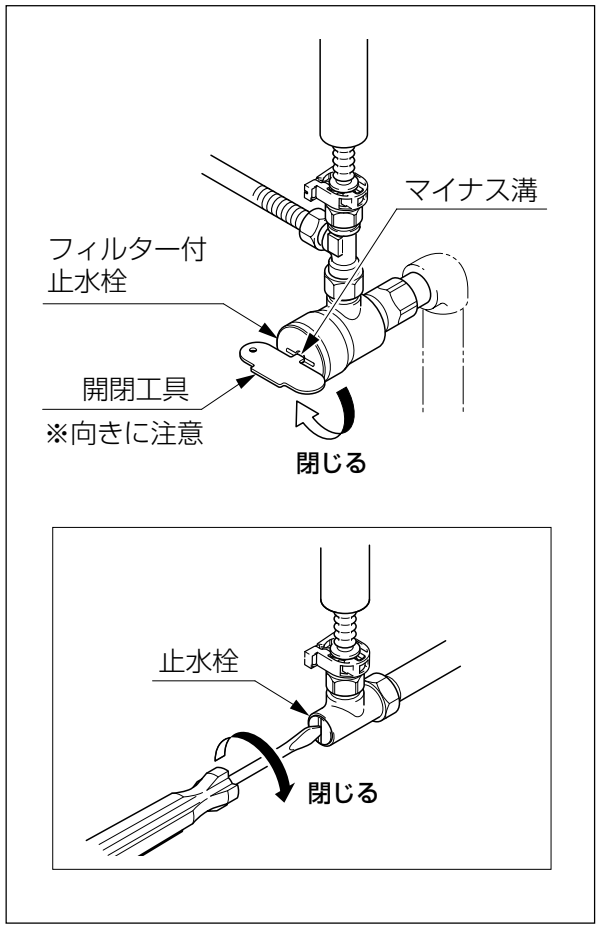
■ストレーナー付パッキンの掃除（タンク仕様の場合）

●タンクへの給水時間が長くなったときは、ストレーナー付パッキンのゴミ詰まりが原因と思われますので、甲板、前板（小）を取り外して（P．10、11 参照）、以下の手順でストレーナー付パッキンのゴミを取り除いてください。

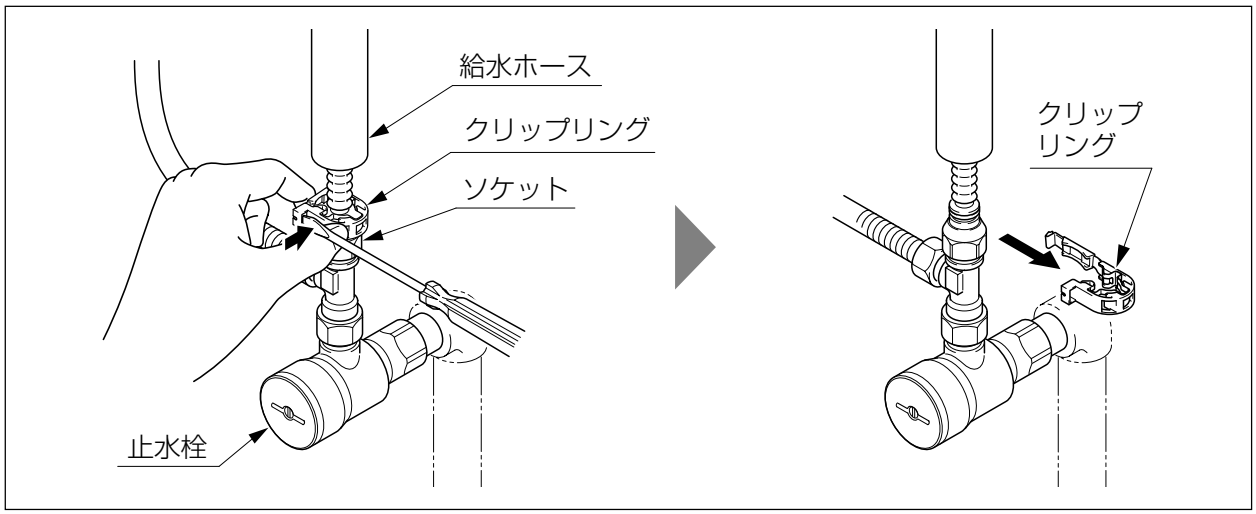
1．洗浄タンク給水の止水栓を（フィルター付き止水栓の場合は付属の開閉工具、他タイプの止水栓の場合はマイナスドライバー等）で右に回して閉めます。

注意

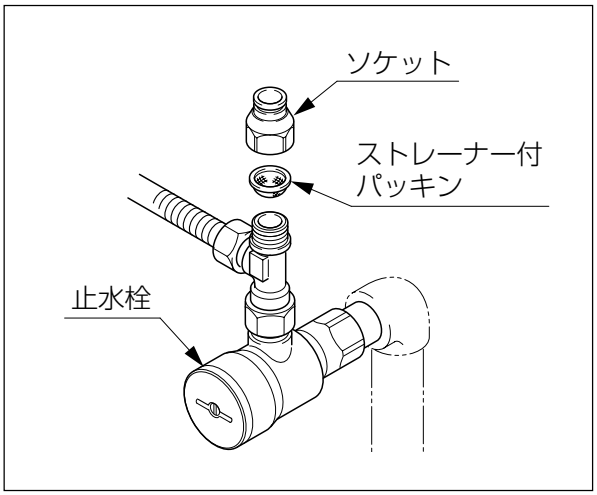
止水栓のマイナス溝に合ったマイナスドライバーを使用してください。
※マイナス溝は樹脂製ですのでキズを付ける恐れがあります。
※必要以上に閉めすぎないでください。



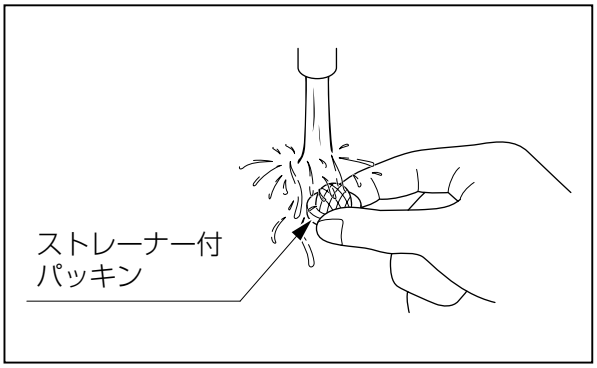
2．給水ホースとソケットを固定しているクリップリングを図のようにマイナスドライバーを差し込んで外し、給水ホースをソケットから外します。
このとき、給水ホース内の水が出てきますので、ぞうきん等を用意しておいてください。



3．ソケットを止水栓から外し、ストレーナー付パッキンを取り出します。



4．ストレーナー付パッキンを水洗いしてゴミを取り除きます。



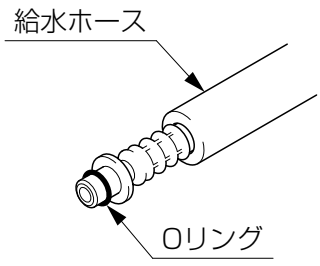
5．ストレーナー付パッキンをソケットに取り付けます。

6．取外しと逆の手順でストレーナー付きパッキンを取り付け、給水ホースを接続します。

⚠ 注意

●Oリングを傷つけないように注意してください。
※Oリングが切れたり、キズついたりすると漏水します。

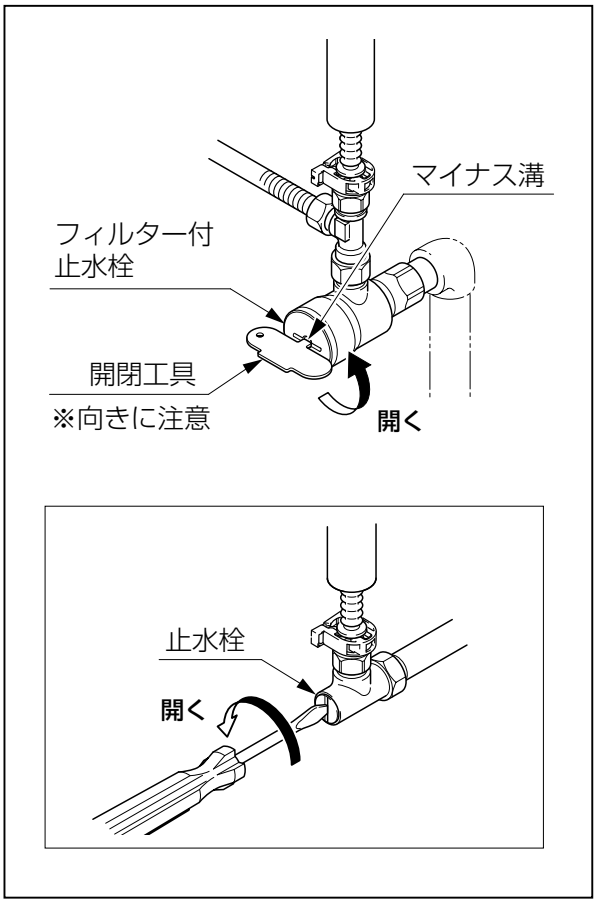
●給水ホースの接続は確実に行なってくださいください。
※接続部の固定が不十分ですと漏水の原因になります。



指示実行

7. 止水栓を（フィルター付き止水栓の場合は付属の開閉工具、その他の止水栓の場合はマイナスドライバー等）で左に回して全開にし、1/4 回転程度戻します。

8. 給水時間が短くなったことを確認します。
※接続部が漏水していないことを確認してください。



■洗浄水がなかなか止まらないとき（タンク仕様の場合）

●オストメイト洗浄後５分以上たっても、洗浄水が止まらない場合は、甲板、前板（小）、タンクフタを外して、止水栓を右に回して給水を止め、以下の確認を行なってください。

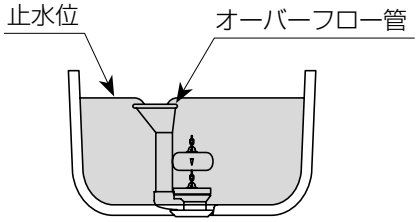
※甲板、前板（小）、タンクフタの外しかた（P．10、11 参照）

※止水栓の操作のしかた（P．19 参照）

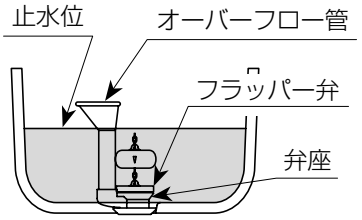
洗浄水が止まらない！

タンク内の水位を確認してください

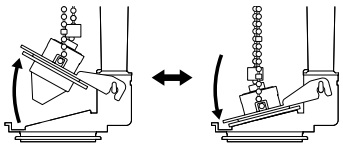
止水栓〈開〉※
水があふれている
（オストメイト対応流しの中に少しずつ水が出ている）



止水栓〈閉〉
水があふれている
（給水を止めても便器の中に少しずつ水が出ている）



フロート弁のフラッパー弁が弁座に納まっていることを確認してください。



弁座にゴミなどの異物が挟まっている場合は、取り除いてください。

まだ止まらない

ボールタップのダイアフラムパッキン(A)、またはボールタップ(B)の交換が必要です。

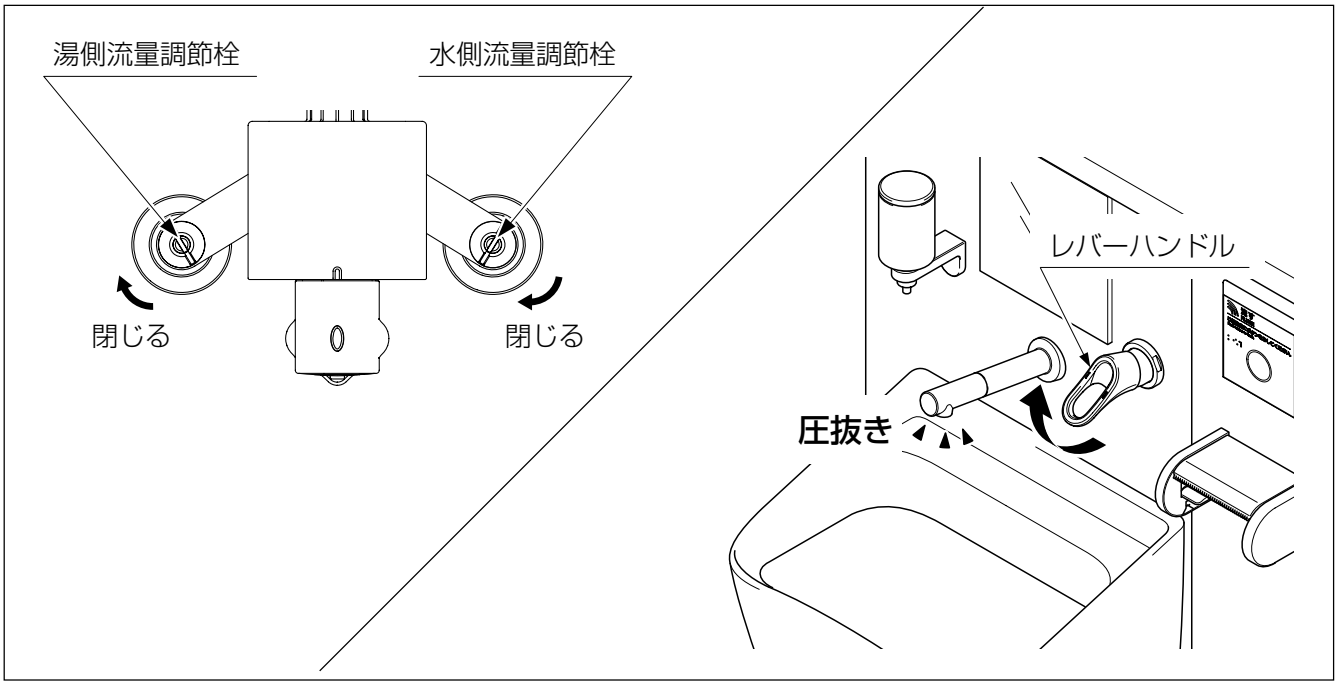
フロート弁のフラッパー弁(A)、またはフロート弁(B)の交換が必要です。

(A)、(B)の場合、または原因がよくわからない場合 → 販売店またはお客さま相談センター（保証書に記載のフリーダイヤルをご利用ください）へお問い合わせください。

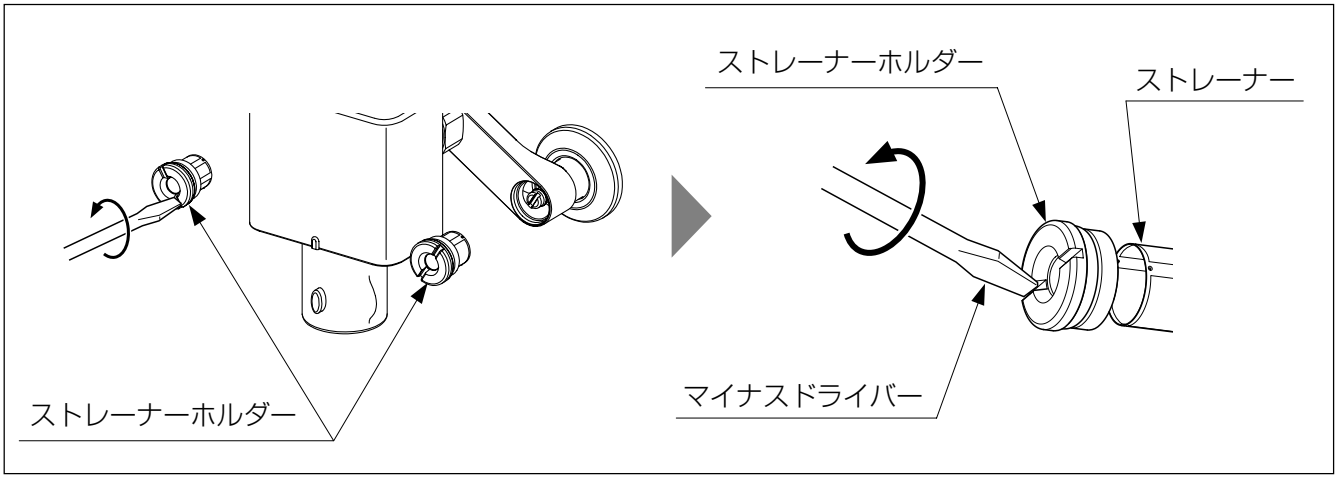
■ストレーナーの掃除（サーモスタット付の場合）

流量が少なくなった場合や、吐水が乱れてきた場合は、ストレーナーのゴミ詰まりが考えられます。ときどき次の要領で掃除してください。

1．甲板、前板（小）を取り外します。（P．10、11 参照）
2．湯側・水側の流量調節栓を時計まわりにいっぱいにねじ込みます。
3．レバーハンドルを開き、止水していることを確認し、圧抜きします。



4.マイナスドライバーで流量調節栓外側のストレーナーホルダーを取り外し、ストレーナーのゴミを洗い流す。
5．取付けは逆の手順で行ない、流量調節栓を元に戻します。
※定流量弁が取り外してある場合は、流量調節栓にて適正流量に調節してください。（流量の調節を行なう場合、詳細は「流量の調節」の項（P.13）を参照してください。）



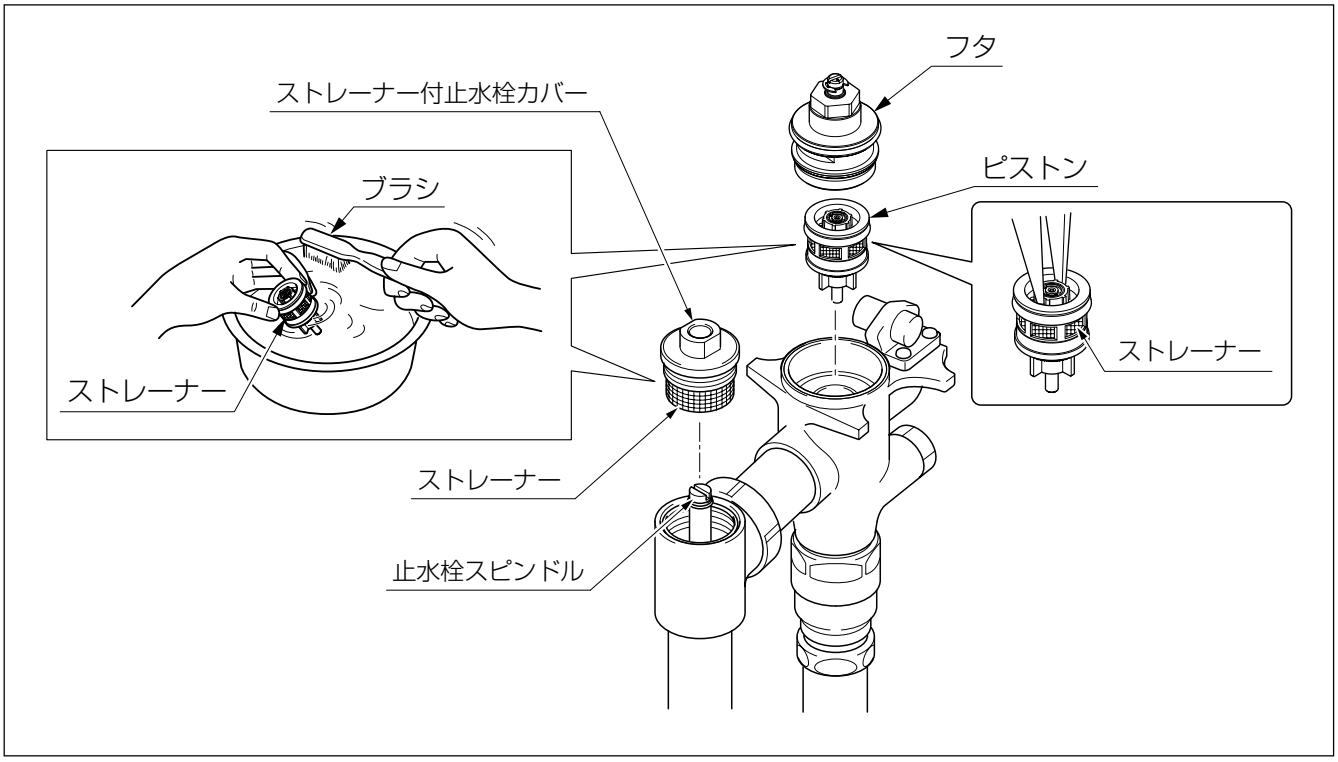
■フラッシュバルブのお手入れ（フラッシュバルブ仕様の場合）

配管内に残留しているゴミ等により、止水不良が発生する場合があります。その場合は以下要領にしたがいピストンや電磁弁のダイヤフラムなどを掃除してください。

• フラッシュバルブストレーナー

甲板を外し（P．10 参照）、フラッシュバルブ止水弁を閉めて作業します。

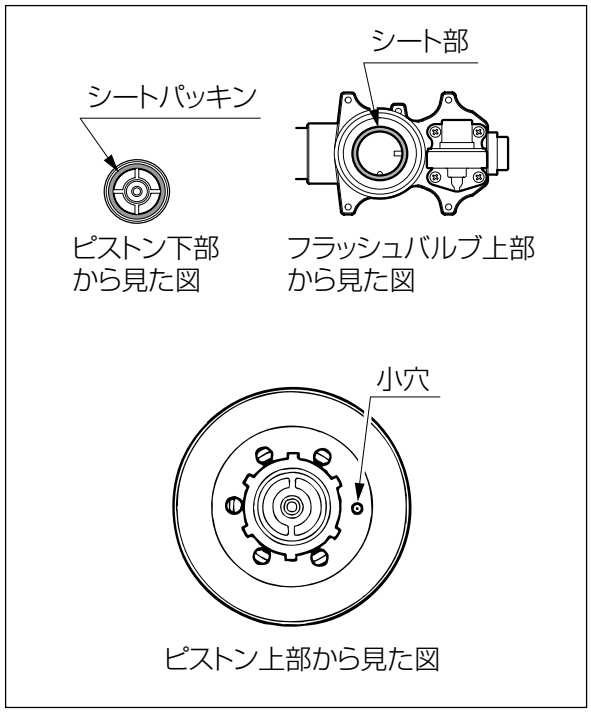
※ストレーナーに詰まったゴミや汚れを歯ブラシなど先の柔らかいブラシを使用して取り除いてください。



※シートパッキン･シート面もあわせて掃除してください。

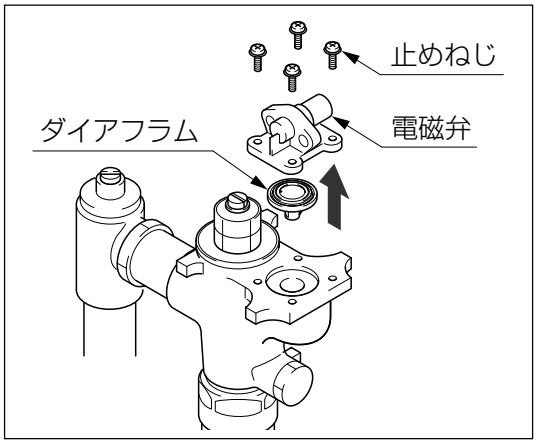
ピストン小穴に詰まったゴミも取り除いてください。

ゴミによりシートパッキンが変形している場合はピストンを交換してください。

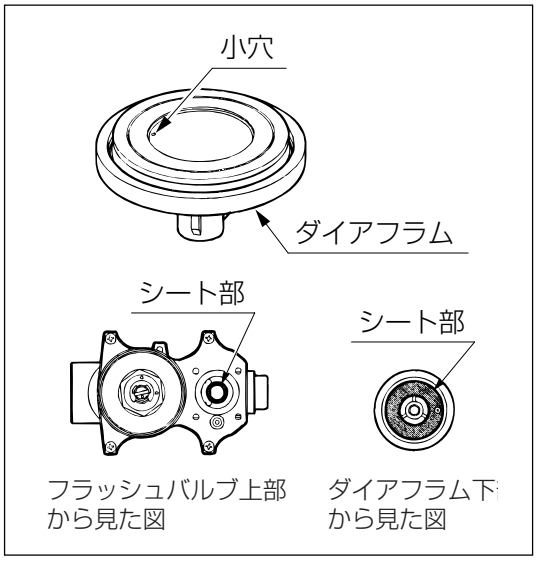


• ダイアフラムおよびシート部の掃除

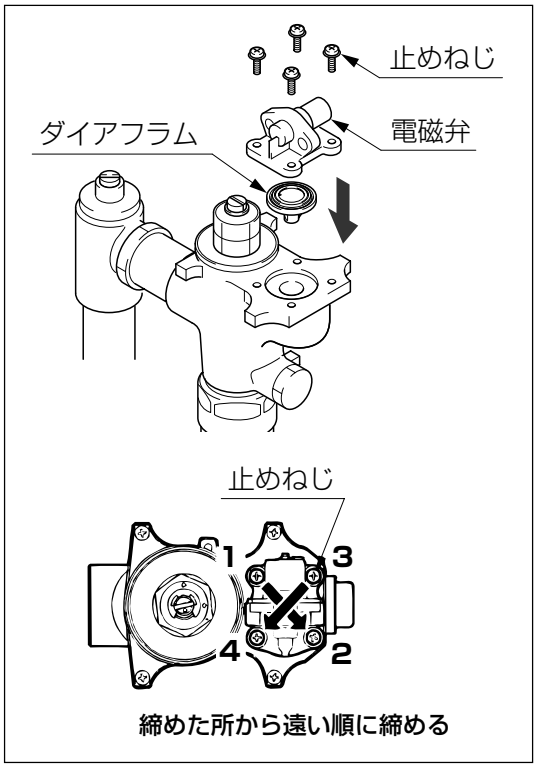
1. プラスドライバーで電磁弁の止めねじ４本を外して、電磁弁とダイヤフラムを取り外します。



2. ダイヤフラムの小穴に詰まったゴミを、息をふきかけるなどして取り除きます。
また、シート面およびシート部のゴミや汚れも取り除いてください。



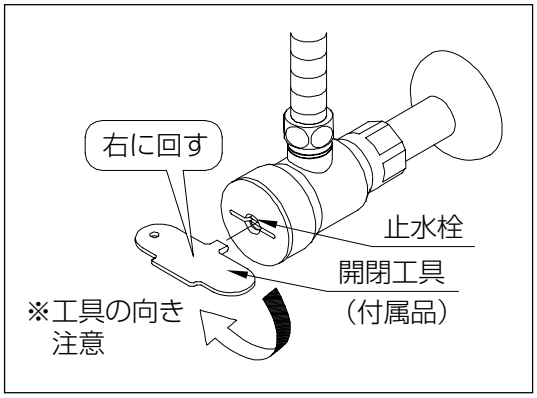
3. ダイヤフラムと電磁弁をもとの位置にはめ、止めねじ４本で固定します。
※止めねじを締める際は均等に締まるよう、締めたところから遠い順に締めます。



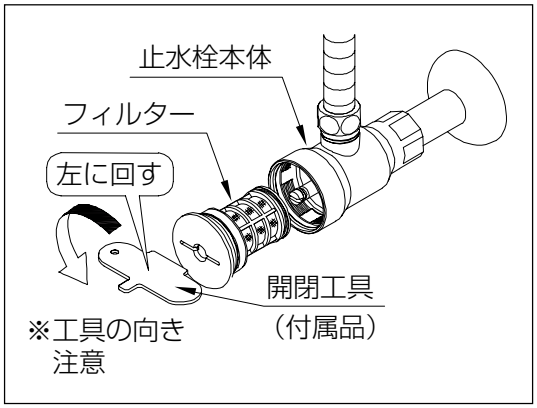
■フィルター付止水栓について（電気温水器付の場合）

フィルターの掃除の詳細は電気温水器の取扱説明書をご参照ください。

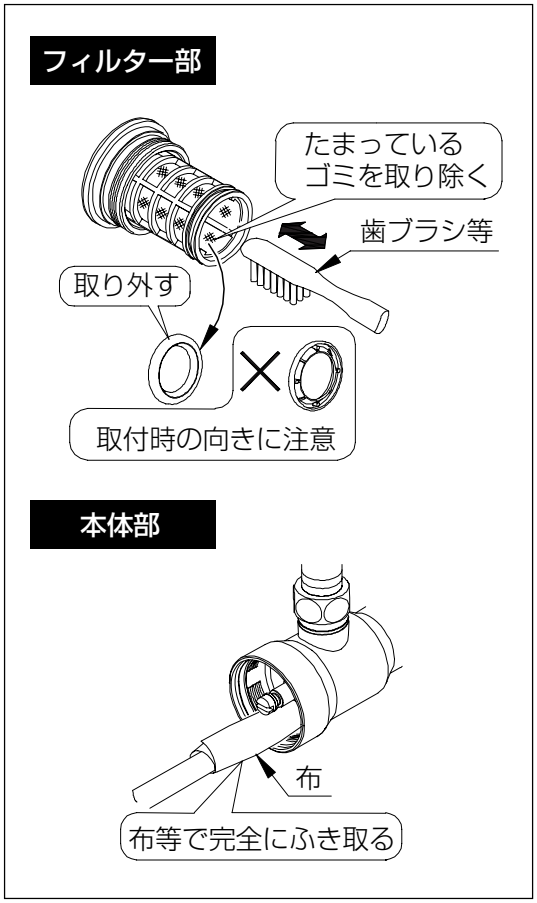
1．甲板、前板（小）を取り外します。（P．10、11 参照）
2．電源スイッチを「切」にして電源プラグをコンセントから抜きます。
3．開閉工具（止水栓付属品）を用いて止水栓を閉めます。



4．開閉工具（止水栓付属品）を用いてフィルターを取り外します。



5．フィルターおよび止水栓本体内部のゴミをブラシ等で取り除きます。



6．取り外しと逆の手順でフィルターを取り付けます。

■電気温水器のメンテナンス（電気温水器付の場合）

電気温水器のメンテナンスの詳細は、電気温水器に付属の取扱説明書をご覧ください。

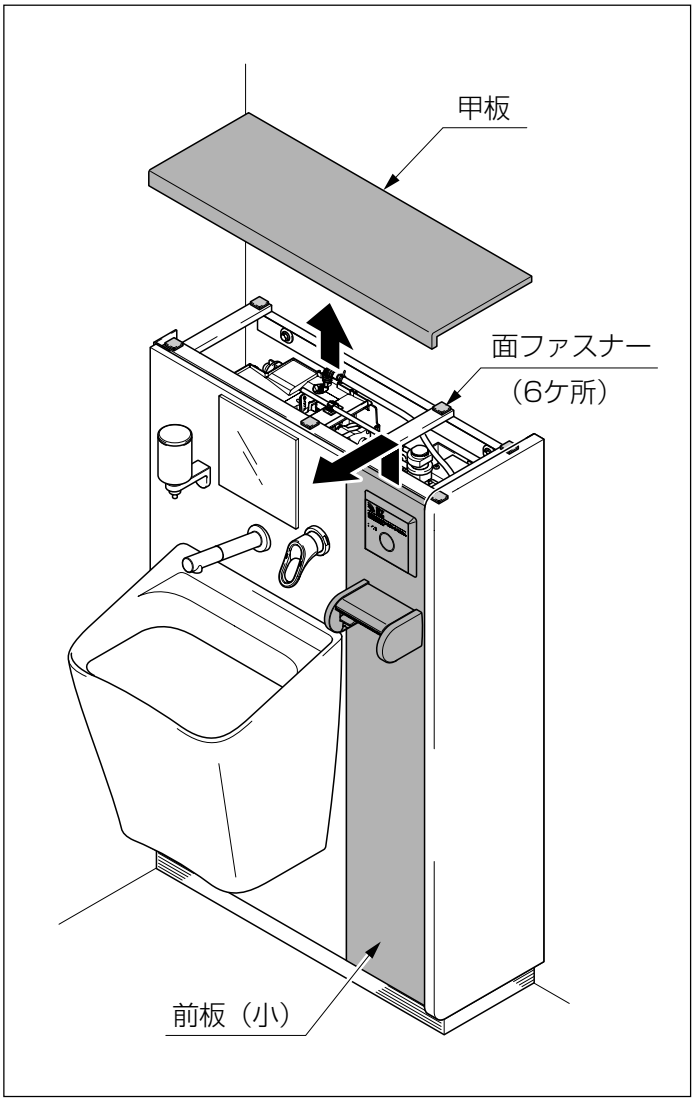
●コンセントプラグについて

半年に 1 回程度は電源プラグを抜き、ほこりを除去してください。

※火災の原因になります。

●電気温水器の取外し方

1．甲板、前板（小）を取り外します。
（P．10、11 参照）

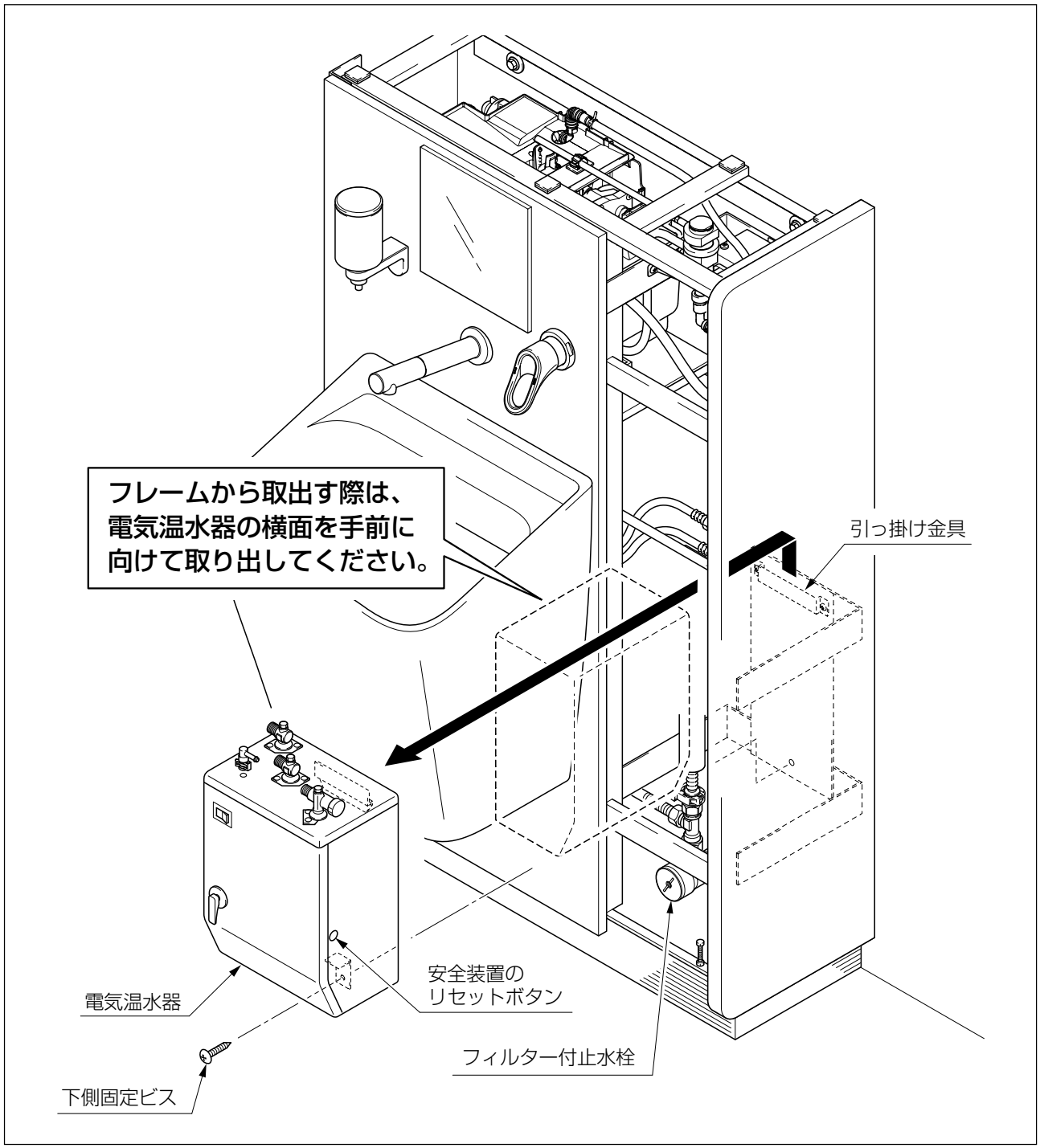


2．電気温水器のスイッチを切り、電源プラグをコンセントから外します。

3．レバーハンドルを最高温度にし、お湯が水にかわるまで吐水させます。

※必ず電気温水器の湯を出しきってください。電気温水器の水抜き時にヤケドをする恐れがあります。

4．フィルター付止水栓を閉めます。（P．19 参照）
5．電気温水器に接続されている給水フレキ管、膨張水排出ゴムホースを取り外します。
6．電気温水器の下側をフレームに固定しているビスを取り外します。
7．電気温水器を上に引き上げ、引っ掛け金具より外し手前に取り外します。
8．電気温水器の取扱説明書にしたがって電気温水器内部の水を抜きます。



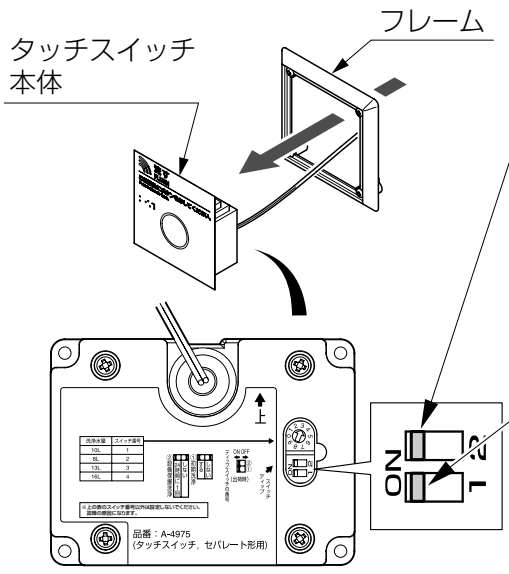
電気温水器の再取付は、上記の逆の手順としてください。再取付後、レバーハンドルを最高温度にし、吐水口から水が出るまで（電気温水器のタンクが満水になるまで）吐水させた後、電気温水器の電源を入れてください。

※空だき状態になり、電気温水器の安全装置が作動する恐れがあります。

■タッチスイッチのその他の機能設定

本品は電源投入後、自動的に一度水が流れます。（初期洗浄機能）
また、24 時間以上洗浄が行われない場合、自動的に洗浄を行います。（設備保護洗浄機能）
これらの機能はタッチスイッチ裏面のディップスイッチにより入切可能です。

- タッチスイッチ本体はマグネットで固定されています。
  裏からタッチスイッチ本体を押して取り外してください。



（タッチスイッチ裏面）

● 設備保護洗浄（ディップスイッチ2）の設定

設備保護洗浄は、出荷時「24時間に1回」（ON）に設定しています。ディップスイッチ2を切り替えることで「しない」に設定することができます。

※「しない」に設定した場合、長時間使用しないと、封水切れを起こす恐れがあります。

※設備保護洗浄「しない」場合

● 初期洗浄（ディップスイッチ1）の設定

初期洗浄は、出荷時「する」（ON）に設定しています。ディップスイッチ1を切り替えることで「しない」に設定することができます。

※初期洗浄「しない」場合

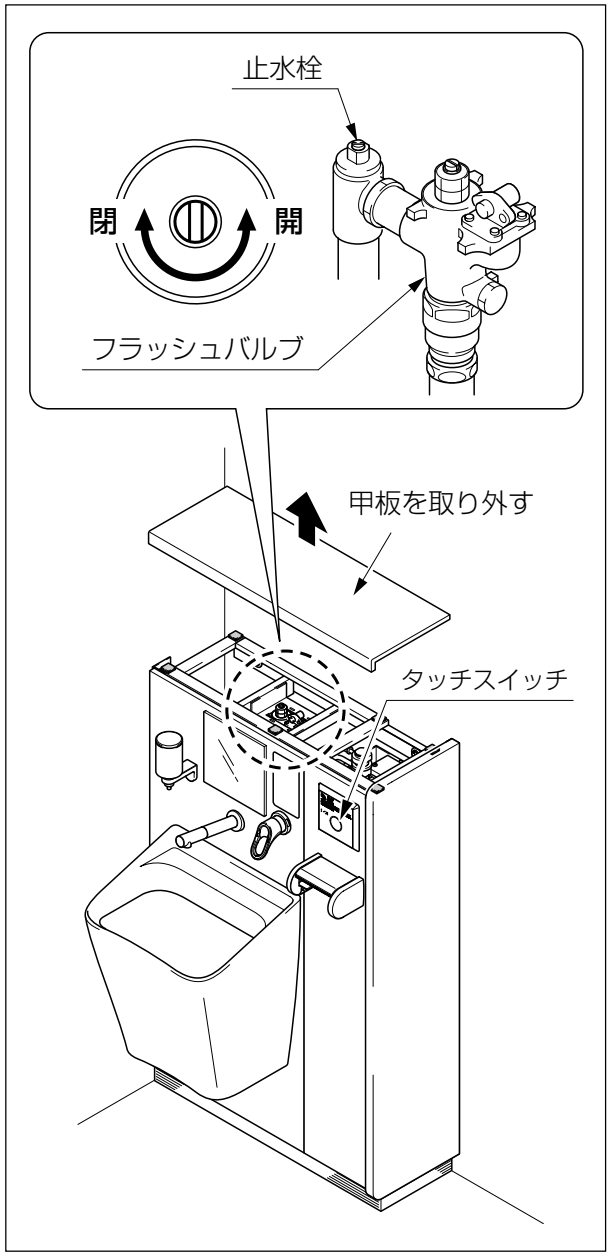
■断水後の復旧（フラッシュバルブ仕様の場合）

ご注意

●断水により、給水管内に空気が混入した恐れのある場合は、以下の手順にしたがい、エア抜きを行ってください。

※エアが混入したまま使用すると、陶器などが破損し、使用者がケガをする恐れがあります。

1．甲板を取り外します。（P．10 参照）
2．止水栓を全閉にします。
　※止水栓は押しこみながら閉めてください。（押しこまないと閉まりません）
　※止水栓は全開に戻すため、印は不要です。
3．タッチスイッチを押します。
4．止水栓を少しずつ開き、エア抜きをします。
5．止水栓を全開に戻し、甲板を元に戻します。

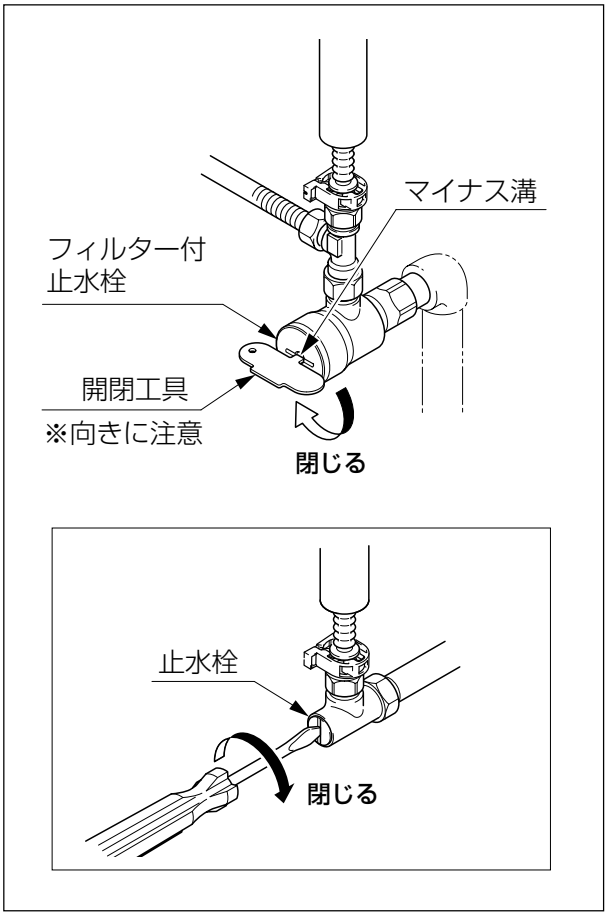


■長期間使用しないとき（タンク仕様の場合）

注意

長期間使用しない場合は、必ず水抜き操作を行なってください。
※凍結破損により、漏水の原因になります。

1. 止水栓を操作してタンクへの給水を止めます。（P．19 参照）
2. 凍結の恐れがある地域では、凍結破損防止のためタッチスイッチを押してタンク内の水を完全に抜きます。



●使用を再開するとき

止水栓を操作してタンクへの給水を行ないます。（P．19 参照）

注意

止水栓は必ず全開にして、1/4回転程度戻してください。

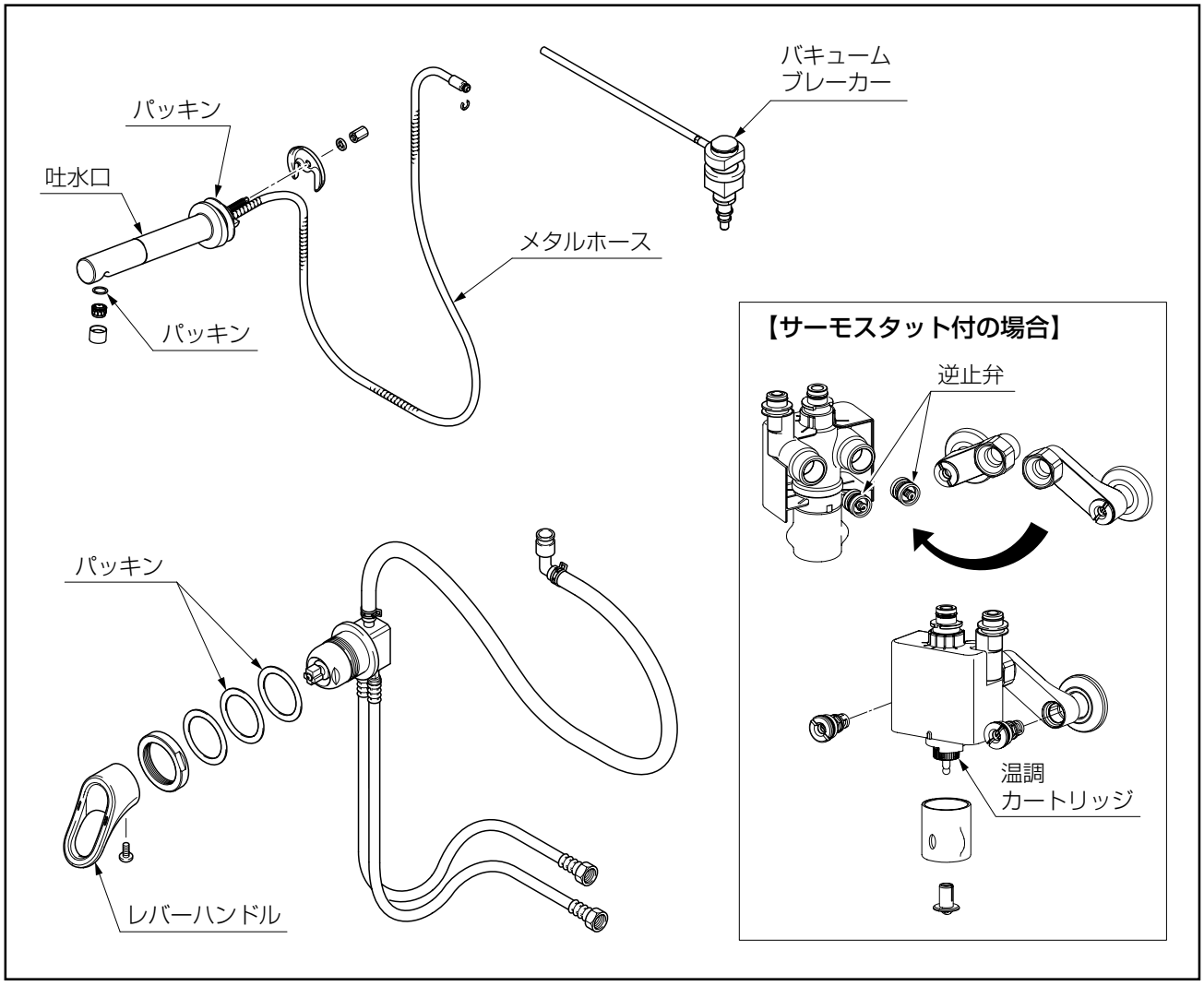
■定期的な部品交換のお願い（磨耗劣化する部品交換のお願い）

●部品が磨耗・劣化すると水漏れ等の原因になりますので交換が必要です。

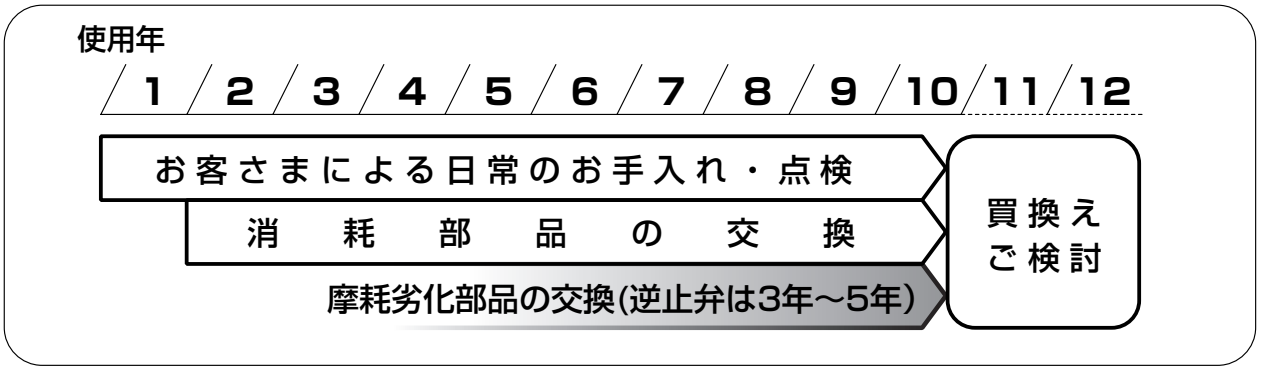
●磨耗・劣化する部品の例。（仕様によって異なります）

例）レバーハンドル、吐水口、メタルホース、パッキン、バキュームブレーカー、逆止弁、温調カートリッジなど

●部品の交換については、お求めの取扱店・販売店または、LIXIL 修理受付センターへご依頼ください。製品状況により、磨耗箇所以外の部品交換も必要な場合があります。



●定期的な点検・部品交換のめやす



●修理を依頼される前に

■故障かなと思ったら

次のような場合は、故障ではありません。簡単に故障が直る場合がありますので、修理を依頼される前に下記項目をご確認ください。確認しても故障が直らない場合は止水栓を閉じ、漏電遮断機を切ってお求めの販売店またはLIXIL修理受付センターにご相談ください。

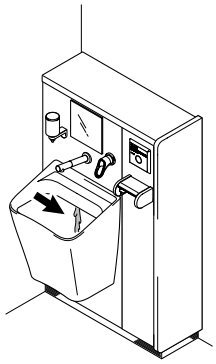
⚠警告

修理技術者以外の人は、保守・点検の決められた項目以外は、絶対に分解・修理・改造は行わないでください。
※故障・感電の原因になります。

●タッチスイッチ・フラッシュバルブについて

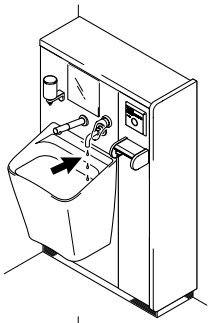
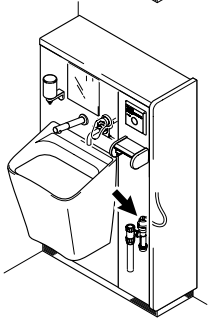
現　象	確　認	処　置
水が出ない	電源プラグはコンセントに差し込まれていますか。	電源プラグをコンセントに確実に差し込んでください。
	コネクタは確実に差し込まれていますか。	コネクタを差し込みます。
	停電中ではありませんか。	停電復帰を待ってください。
	止水栓は開いていますか。	止水栓を開けてください。
	断水中ではありませんか。	断水が終るまでお待ちください。
水が止まらない	ピストンとフラッシュバルブ本体のシート部にゴミがかんでいませんか。	シート部を掃除してください。（34,35ページ）
	ピストンの小穴にゴミが詰まっている。	ピストンの小穴のゴミを取り除く。（34,35ページ）
	ダイヤフラムの小穴にゴミが詰まっている。	ダイヤフラムの小穴のゴミを取り除く。（34,35ページ）
洗浄水量が少ない	止水栓は全開に開いていますか。	止水栓を全開にします。（19ページ）
	水量調整スピンドルの設定は正しく行われていますか。	水量調整スピンドルの設定をします。（19ページ）
洗浄水量が多い	ピストンのストレーナーにゴミなどが詰まっていませんか。	ピストンのストレーナーを掃除してください。（34,35ページ）
	洗浄水量設定は正しく行われていますか。	洗浄水量を設定します。（16ページ）
水が勝手に流れる	「設備保護洗浄」、「初期洗浄」ではないですか。	「タッチスイッチのその他の設定」の内容を確認してください。（39ページ）

●オストメイト対応流しについて

現　象	確　認	処　置
鉢内に水が流れ続ける 	電気温水器が沸き上げ中ではありませんか。	電気温水器が沸き上がると止まります。
	水栓のレバーハンドルが完全に閉まっていますか。	水栓のバキュームブレーカーから水が漏れています。 水栓のレバーハンドルを完全に閉めてください。
鉢の内部に青緑色の汚れが付着している	膨張水排出金具から排出された膨張水中の銅イオンによる緑青ではないですか。	日常のお手入れについてをご確認ください。 （23ページ）
鉢の内部に黒い粗状の付着物ができる **鉢の内部に赤いサビの付着物がある**	給水管のサビが洗浄時に流れて鉢内に付着したものです。	トイレ用酸性洗剤を布に含ませ、数時間程度付着した部分にあてて放置した後、布でふき取ってください。
陶器にピンク色の汚れがある	空気中のバクテリアが、陶器に付着した汚れを栄養に繁殖したものです。バクテリアは水中や空気中に分布しており、健康な人に害を及ぼす細菌ではありません。	中性洗剤を使用して掃除してください。 繁殖しやすいため、こまめなお手入れをおすすめします。漂白剤を使うと除菌効果があります。
タンクへの給水時間が長い	止水栓は十分に開いていますか。	止水栓を全開にし、1/4回転程度戻します。 （19ページ）
	ストレーナー付パッキンが目詰まりしていませんか。	ストレーナー付パッキンの掃除をします。 （29ページ）
水の流れが悪いまたは、汚物がよく残る	止水栓は十分に開いていますか。	止水栓を全開にし、1/4回転程度戻します。 （19ページ）
	ストレーナー付パッキンが目詰まりしていませんか。	ストレーナー付パッキンの掃除をします。 （29ページ）
	トイレットペーパーを多めに流していませんか。	一度に流すトイレットペーパーの量は5m程度を目安にしてください。
洗浄後に床下の排水管から「ポタポタ」と音がする	故障ではありません。 オストメイトの排水が床下にある排水管に落下する音です。	

●水栓・電気温水器について

現　象	確　認	処　置
吐水しない	断水中ではありませんか。	断水が終るまでお待ちください。 （フラッシュバルブ仕様の場合断水後の復旧は40ページをご参照ください）
	電気温水器のフィルター付止水栓が閉まっていませんか。 （電気温水器付の場合）	止水栓を開けてください。（19ページ）
	ストレーナーや泡沫口にゴミ等が付着していませんか。	ゴミ等を除去してください。（26,33ページ）
	上記の箇所を確認しても吐水しない場合は、流量調節栓を閉じて、取扱店またはLIXIL修理受付センターまでお問い合わせください。	
泡沫口根元から水が漏れる	泡沫口がしっかり締め込まれていますか。	泡沫口をしっかり締め込んでください。 （26ページ）
流量が少ない	止水栓は十分に開いていますか。	止水栓が適切に絞られていることを確認してください。（19ページ）
	ストレーナーや泡沫口にゴミ等が付着していませんか。	ゴミ等を除去してください。（26,33ページ）
流量が多い	止水栓を適切に絞っていますか？	止水栓が適切に絞られていることを確認してください。（19ページ）
お湯が出ない	停電中ではありませんか。	停電復帰を待ってください。
	電温のスイッチは切れていませんか。 （電気温水器付の場合）	電源スイッチを入れてください。
	サーモスタットの流量調節栓が閉まっていませんか。 （サーモスタット付の場合）	流量調節を行ってください。（19ページ）
	電気温水器の安全装置が作動していませんか。（電気温水器付の場合）	電気温水器の取扱説明書にしたがい、安全装置のリセットボタンを押し、復旧させてください。電気温水器の取外し方法はP37,38をご参照ください。
高温しか出ない	水側の流量調節栓は十分開いていますか。（サーモスタット付の場合）	流量調節栓を全開にしてください。（19ページ）
温度が低い	給湯温度は希望吐水温度より10℃以上高くなっていますか。 （サーモスタット付の場合）	10℃以上でなければ給湯温度の調節をしてください。（22ページ）
	湯側の流量調節栓は十分開いていますか。（サーモスタット付の場合）	流量調節栓を全開にしてください。（19ページ）
	お湯切れになっていませんか。	電気温水器のタンクのお湯がなくなると、わかし上げに時間がかかります。

現　象	確　認	処　置
温度調節がきかない	流量調節栓は湯、水側ともに、十分に開いていますか。（サーモスタット付の場合）	全開にしてください。（19ページ）
	ストレーナーや泡沫口にゴミ等が付着していませんか？	ゴミ等を除去してください。（26.33ページ）
	給湯器は正常に作動していますか。	給湯器から十分な温度のお湯がきていることを確かめてください。
	他所で同時に水栓を使用していませんか。	使用時には、他所の水栓を同時に使用しないようにしてください。
熱いお湯が出ない	手を洗うのに適正程度の温度ですか。	最高温度は約36℃です。
電温の通電表示灯が点灯していない	温水は正常に出ますか。	電気温水器の通電表示灯はヒーターが通電している間だけ点灯し、沸きあがった状態では消灯します。詳しくは電気温水器の取扱説明書をご確認ください。
異音がする	止水栓を適切に絞っていますか？	水圧が高いことにより発生する流水音が考えられます。止水栓の調節をして流量を絞ることで流水音を低減することができます。（19ページ）
吐水口がスムーズに収納できない	メタルホースと他部材が干渉していませんか？	メタルホースと他部材が干渉しないようにしてください。
水を止めた後に、少しの間水が垂れる	メタルホース内部にたまった少量の水が排出するためで、故障ではありません。	
ハンドル操作時に異音がする	レバーハンドルの開閉時はゆっくり操作してください。 それでも直らない場合は、「止水栓の調節のしかた」にしたがい、止水栓を少し絞ってください。（19ページ）	
膨張水排出器具、あふれ水排出金具からポタポタと水が出る。  	電気温水器が沸き上げ中ではありませんか。	電気温水器が沸き上がると止まります。
	水栓のレバーハンドルが完全に閉まっていますか。	水栓のバキュームブレーカーからのあふれ水です。 水栓のレバーハンドルを完全に閉めてください。
臭いがする	膨張水排出器具の封水が切れていませんか。	膨張水排出器具のトラップに水を補給してください。

●水石けん入れについて

現　象	確　認	処　置
水石けんが出ない	水石けんが入っていますか。	水石けんを補充してください。
	水石けんが固まっていませんか。	水石けん入れ内部を洗ってください。 （25ページ）

●アフターサービスについて

■修理依頼・ご相談について

より安全にご使用いただくために、次の場合は必ずお求めの販売店にご相談ください。

●“取扱説明書”どおりに使用されても、まだご不明な点があるとき

⚠警告

修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理･改造は行わないでください。
※ケガをする恐れがあります。

■定期点検のおすすめ

有料となりますが､次のような場合は定期的に点検を受けていただくことをおすすめします。

●ご使用上支障がなくても長くお使いいただくため、お買上げより３年たったもの。

●温泉地域および海岸付近など、特に腐食をおこしやすいところで使用されるもの。

■保証書と保証期間

この商品は保証書がついています。保証書は、販売店で所定事項を記入してからお渡しいたします。記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

保証期間は取付日より２ケ年です。

保証期間内でも有料になることがありますので、保証書の記載内容をよくご確認ください。

■修理を依頼されるとき

お求めの販売店または、保証書に記載のLIXIL 修理受付センター（フリーダイヤルをご利用ください）までご相談ください。

〈保証期間中は〉

- 修理に際しては、保証書をご提示ください。
- 保証書の規定にしたがって修理させていただきます。

〈保証期間が過ぎているときは〉

- 修理すれば使用できる商品については、ご希望により有料にて修理させていただきます。

〈修理料金は〉

- “技術料”＋“出張料”＋“部品代”で構成されています。

〈連絡していただきたい内容〉

1. ご住所、ご氏名、電話番号
2. 商品名
3. 品番
4. ご購入日
5. 故障内容、異常の状況
6. 訪問ご希望日

■部品の保有期間について

当社は商品の補修用性能部品（商品の機能を維持するために必要な部品）を製造打切り後最低６年保有しています。この部品保有期間を修理対応可能の期間とさせていただきます。
保有期間が経過した後でも、故障箇所によっては修理可能な場合がありますのでご相談ください。

■アフターサービス等についておわかりにならないとき

販売店またはお客さま相談センター（保証書に記載のフリーダイヤルをご利用ください）へお問い合わせください。

●仕様

■仕様表

	品　名	品番／仕様
ライニング	甲板	メタクリル系人造大理石
	前板パネル	塩ビ鋼板パネル
	幅木	ステンレス　ヘアライン仕上
	フレーム	溶融亜鉛メッキ鋼板
器具	オストメイト対応流し	壁掛オストメイト対応流し，洗浄水量：6L
	洗浄方式	オートフラッシュC，専用埋込タイプ，タッチスイッチ洗浄 電源電圧：AC100V 50/60Hz 消費電力：2W以下（バルブ作動時：4W以下）
	水栓金具	ホース引き出し水栓 （電気温水器なし仕様の場合、サーモスタット付）
	水石けん入れ	横型水石けん入れ 350ml
	紙巻器	ワンタッチ式紙巻器 ワンハンドカット機能付
	電気温水器 （電気温水器付仕様）	タンク容量 3L（EHPN-CA3S2相当） 電源電圧：AC100V　50/60Hz 消費電力：700W 給湯温度：36℃
使用温度条件		0～40℃ (ただし凍結の恐れのある場所では使えません)

LIXIL

保証書

本書は、本書記載内容で、無料修理を行うことをお約束するものです。下記保証期間内に故障が発生した場合は、本書をご提示のうえ、お買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

※　品番・取付日・お客さま・販売店の欄に記載のない場合は、無効になります。

品名：　オストメイトパック		（品番：　　）	
保証期間	取付日より　2 ヶ年	取付日	年　月　日
お客さま	おなまえ	店名	
	おところ		
	おでんわ （　　）　ー	TEL （　　）　ー	

無効

お客さまへ

- 保証書は再発行しませんので、紛失されないよう大切に保管してください。
- お客さまにご記入いただくこの保証書の個人情報につきましては、保証期間内の無料修理対応およびその後の安全点検活動のために利用させていただきます。

無料修理規定（保証規定）

1．「取扱説明書」・「ラベル」などの注意書に従った正常な使用・維持管理状態で、保証期間内に故障した場合、無料修理いたします。
2．無料修理をお受けになる場合、お買い求めの販売店にご依頼のうえ、本書をご提示ください。
3．ご転居、ご贈答品などで、本書に記載の販売店に修理を依頼できない場合は、取扱説明書に記載のお客さま相談センターまたはＬＩＸＩＬ修理受付センターにご相談ください。
4．保証期間内でも、以下の場合、有料修理とさせていただきます。（免責事項）
(1)用途以外(車両、船舶及び使用頻度が極度に高い業務用等)に使用した場合の故障及び損傷等の不具合
(2)指定業者や施工説明書等に基づかない施工及び工事に起因する不具合
(3)お客さまが適切な使用・維持管理を行わなかった事による故障及び損傷等の不具合
(4)専門業者以外による移動・修理・分解などに起因する不具合
(5)建築躯体の変形(強度不足・ゆがみ)等製品以外の不具合に起因する当該製品の不具合
(6)経年変化使用に伴う外観上の現像(塗装の色あせ、もらい錆等)または使用に伴う消耗部品の摩耗などにより生じる不具合
(7)海岸付近、温泉地などの地域における腐食性の空気環境及び公害環境(煤煙、塩害、砂塵、各種金属粉、硫化水素ガスなど各種ガス)に起因する不具合
(8)小動物(犬、猫、ねずみ、昆虫等)の行為または蔓(つる)や根などの植物の害に起因する不具合
(9)天災地変(火災、爆発等事故、落雷、地震、噴火、風水害、津波、地盤沈下、凍結、雪害等)に起因する不具合による故障および損傷
(10)戦争・暴動等破壊行為または犯罪等の不法行為に起因する破損や不具合
(11)自然現象や住環境に起因する結露・染み出し・かび等の現象
(12)消耗品(パッキン)類、配管中の異物のつまり等による故障及び損傷
(13)温泉水、井戸水などであって水道法に定められた飲料水の水質基準に適合しない水を給水したことに起因する故障及び損傷不具合
(14)寒冷地仕様でない製品の場合の凍結による故障及び損傷
(15)給水・給湯配管の錆、砂やごみなどの異物の配管内流入及び水あか固着に起因する不具合
(16)電気・給水等の供給で指定された以外の環境（異常電源・電圧・周波数、異常電磁波、異常水圧・水質、音、振動等）に起因する故障及び損傷などの不具合
(17)保証書の期限切れまたは提示がない場合
(18)本書にお取付日・お客さまのお名前・販売店名の記入のない場合、あるいは字句の書き替えられた場合
5．本書は日本国内においてのみ有効です。
6．本書は、本書に明示した期間・条件のもとにおいて無料修理を行うことをお約束するものです。従って、本書によって、お客さまの法律上の権利を制限するものではありません。保証期間経過後の修理など、ご不明の場合、お買い求めの販売店または取扱説明書に記載のお客さま相談センターにお問い合わせください。
7．修理に必要な補修用性能部品の保有期間は、製造打切後6ヶ年です。

使い方・お手入れ方法等、商品についてのお問い合わせは、お客さま相談センターまで

TEL ０１２０ー１７９ー４００
FAX ０１２０ー１７９ー４３０

※フリーダイヤルは携帯電話・PHS・IP電話などではご利用できない場合がございます。下記番号をご利用ください。
TEL 0562-40-4050　FAX 0562-40-4053

受付時間：平日　9:00～18:00
土日・祝日　9:00～17:00
（ゴールデンウィーク・夏期・年末年始の休みは除く）

修理のご依頼は(本文の「アフターサービスについて」をお読みください)お求めの販売店またはLIXIL修理受付センターまで

TEL ０１２０ー１７９ー４１１
FAX ０１２０ー１７９ー４５６

受付時間：9:00～20:00（365日受付）
ホームページアドレス　http://www.lixil.co.jp/support/

株式会社 LIXIL
ホームページアドレス http://www.lixil.co.jp/

個人情報保護について

当社は、当社取扱商品のユーザーさま及び流通業者さま等の個人情報を商品納入にあたって取得し、将来にわたる品質保証、メンテナンス、その他当社プライバシーポリシーに記載の目的のために利用させていただきます。個人情報の取り扱いについての詳細は、当社ホームページの「プライバシーポリシー」をご覧ください。